

-楽しんで生きる-

彫刻家 喜代志松治の作品と生涯

岐阜大学教育学部教授 河西 栄二

喜代志 松治（きよし まつじ）

- 抽象木彫作家
- 高山市 1929-2016



略歴

1929年に高山市片原町に生まれる

江戸時代から続く印籠屋

印籠産業の衰退の中、自由な造形の彫刻に取り組む

1956年、**二科展**彫刻部門初入選（以後連続入選）

1966年特選、1970年会友推挙、1982年会友賞

略歴

公共彫刻作品を多数制作・設置
名古屋芸術短期大学非常勤講師
名古屋美術講座講師
小品彫刻販売

岐阜県展彫刻部門審査員
高山市美術展運営委員、個展多数

2009年岐阜県芸術文化顕彰

2011年高山市芸術文化顕彰

2016年5月20日病気のため、高山市にて没 87歳

本研究の目的

- 喜代志の彫刻作品の価値を明らかにする
 - 彼の作品の保存・公開・活用を進める
 - 飛騨地域や岐阜県の活性化を期待
 - 「自分らしく楽しんで生きる」大切さを伝える
-
- **研究は資料収集、整理の段階**
 - **喜代志の作品を見て知って感じて欲しい**
-
- 本研究は、飛騨高山大学連携センターとの共同研究

研究手順


- 経歴、作品出品歴、作品画像等
基礎資料の収集整理
- 彼の生涯、作品の変遷、
考え方や生き方の分析

調査方法

- 1 ・ 高山市内の公共彫刻実見調査
- 2 ・ 作家アトリエ、生家での調査、聞き取り取材
- 3 ・ 二科展作品画像の調査
- 4 ・ 美術関係者への聞き取り調査

作品分類

- ①公共彫刻
- ②小品
- ③ドローイング
- ④二科展作品

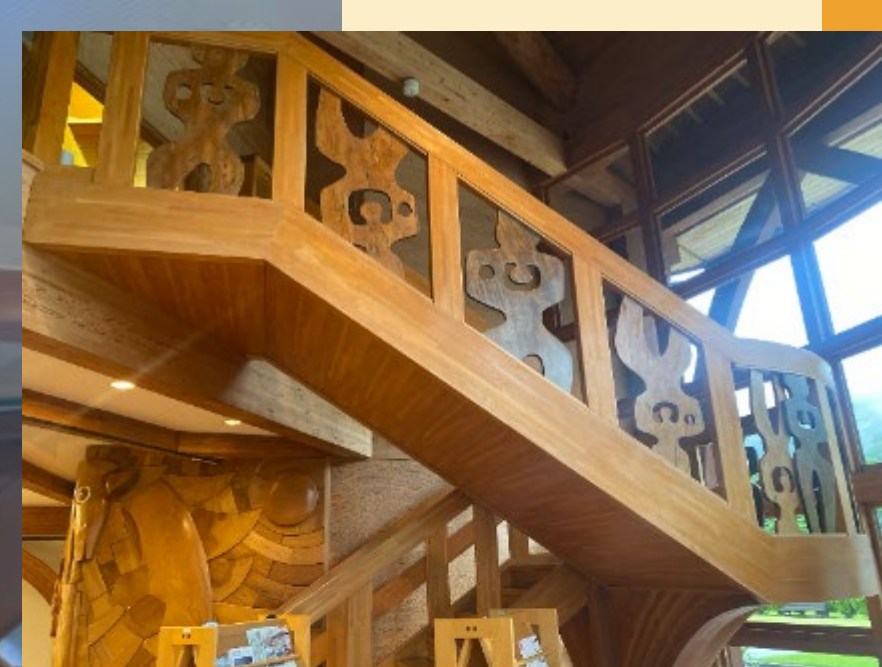


公共彫刻

《神の道》1982年
建設省高山国道工事事務所



公共彫刻



《彫壁》 《木彫手摺》 1988年
清見町ウッドフォーラム



公共彫刻

《円想》1990年
旧・高山赤十字
看護専門学校



公共彫刻

《太陽と歯車》

喜代志松治作
小島政一漆工

高山市庁舎議事堂
1997年



《小品》





《ドローイング》

二科展

・二科展 = 二科会による作品展
大正3年（1914年）から続く

伝統ある全国公募団体展

絵画・彫刻・デザイン・写真の4部門で構成
喜代志の生涯の発表の場

野水信、堀内正和に影響を受ける



喜代志が影響を受けた彫刻家

野水 信（のみず しん 石川県 1914 - 1984）

《2つの石を貫く円筒》

1978年 花崗岩

白川公園（名古屋市）

名古屋短期大学教授



喜代志が影響を受けた彫刻家

堀内 正和（ほりうち まさかず 京都府 1911-2001）

《進む形》

1983年 ステンレス
碧南市臨海体育館前
（碧南市）

京都市立芸術大学教授



ユーモアやエロスのある作品を多数制作

《進む形》

1983年 ステンレス

碧南市臨
(碧南市)

「くだらないことを
大真面目にやっている
面白さがある」

京都市立芸術大学教授



喜代志松治の二科展作品

生涯の作品発表の場

1956年初出品 27歳～2009年退会 76歳

54年間所属 48回作品発表 (晩年6年不出品)

4 1 作品画像調査完了

7 作品画像不明

第41回1956年 27歳 初出品

第42回1957年 28歳

第45回1960年 31歳

第48回1963年 34歳

第44回1959年 30歳

第47回1962年 33歳

第52回1967年 38歳

その後の調査で
以下7作品のタイトルが判明しました。 2026年1月5日

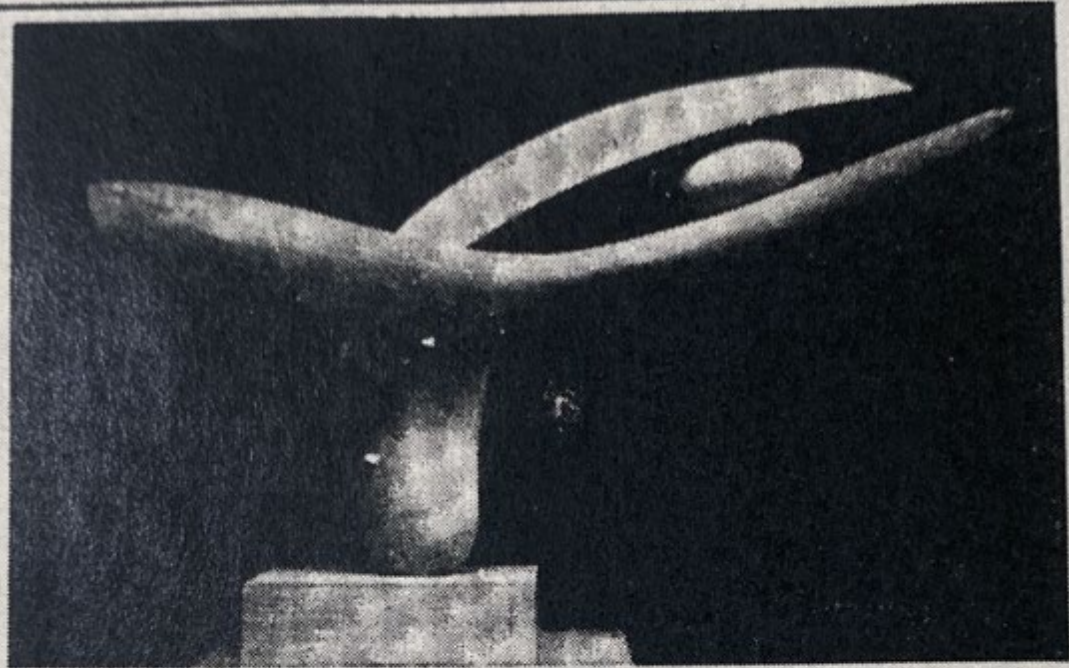
7 作品画像不明

第41回	1956年	《飛驒のトーテム》	27歳	初出品
第42回	1957年	《デコ・F》	28歳	
第44回	1959年	《漂民》	30歳	
第45回	1960年	《秘人》	31歳	
第47回	1962年	《祈禱》	33歳	
第48回	1963年	《默人》	34歳	
第52回	1967年	《昆虫の柱》	38歳	

二科展 作品



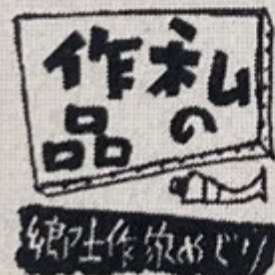
《飛翔》
第43回二科展
1958年 29歳
3回目



岐阜新聞
1958年
昭和33年10月9日

私の作品
郷土作家めぐり
喜代志松治

「飛 翔」
喜代志松治
量的には少くとも大きく五尺×三尺程の作品になりました。飛騨のお祭りの楽しさ、鳳凰の飛び立ちの神秘的な宇宙への感激もうた元れば解くと思います。



出来上って見たらある人は大工筋屋かといふ人もありまし
た。私はそれを素直に受け入れ
ます。(第四十三回二科展出品)

変つたイエス

これはまことに驚いた趣向の小説である。紀元三千年四月六日の午後六時から翌七日の午後四時までを二時間単位に区切って、イエスが十字架にかけられ葬に葬られるまでの出来事をくわいに小説

のかたちで描いたものである。イエス伝と評はれる書物は、それこそ数えきれないほど多く、モヤリヤクの「イエスの生涯」をはじめ小説の形で書かれたものもけして少なくはないけれども、地上

「キリストが死んだ

- ・ 飛騨のお祭りの楽しさ
- ・ 鳳凰の飛び立ち
- ・ 神秘的な宇宙への感激
- ・ 人工衛星
自由な見方の受け入れ

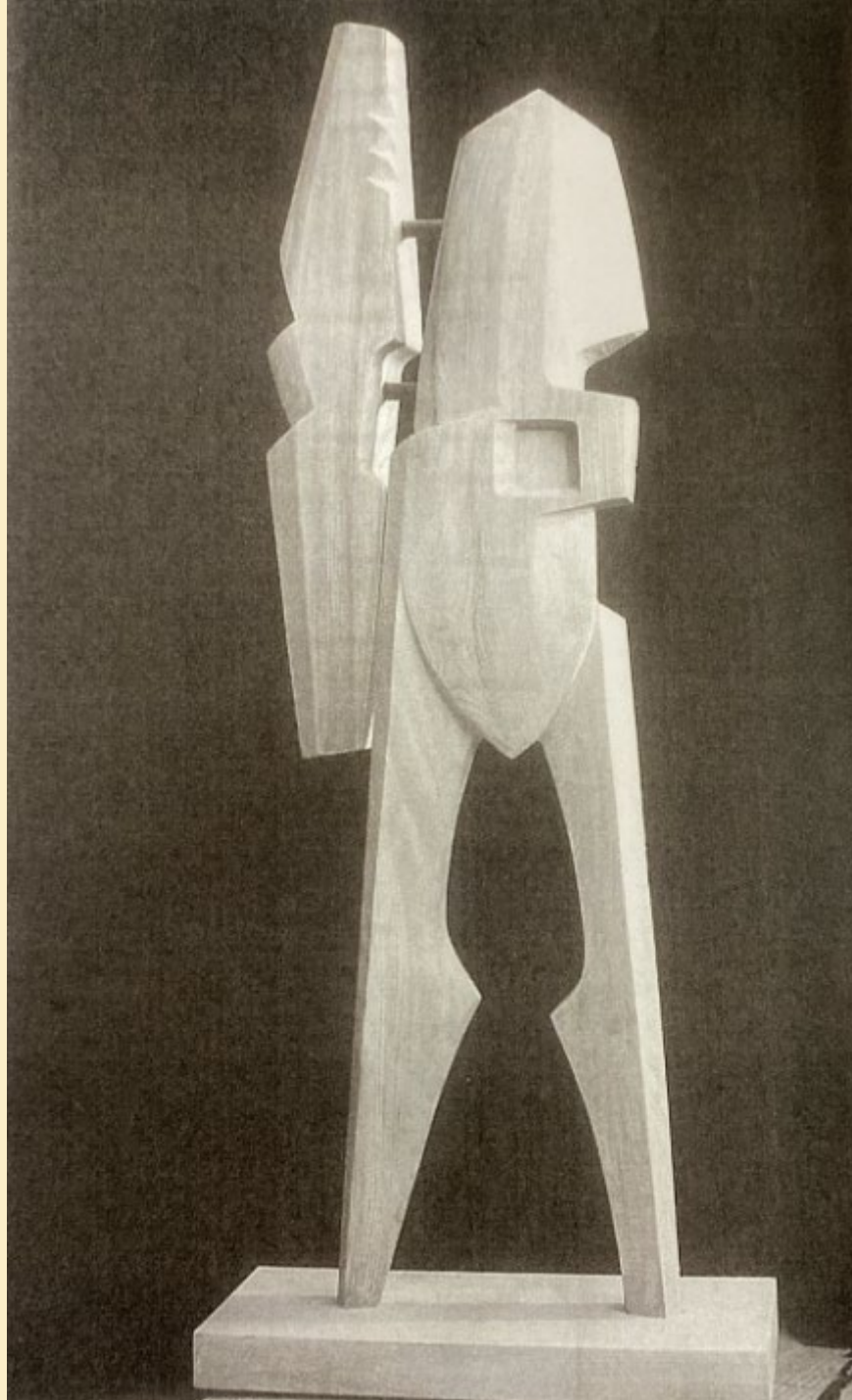
郷里
高山への愛情と、

作品を
自由に感じて欲しい
という、
喜代志の思い

岐阜新聞
1958年
昭和33年10月9日

私の作品
郷土作家めぐり

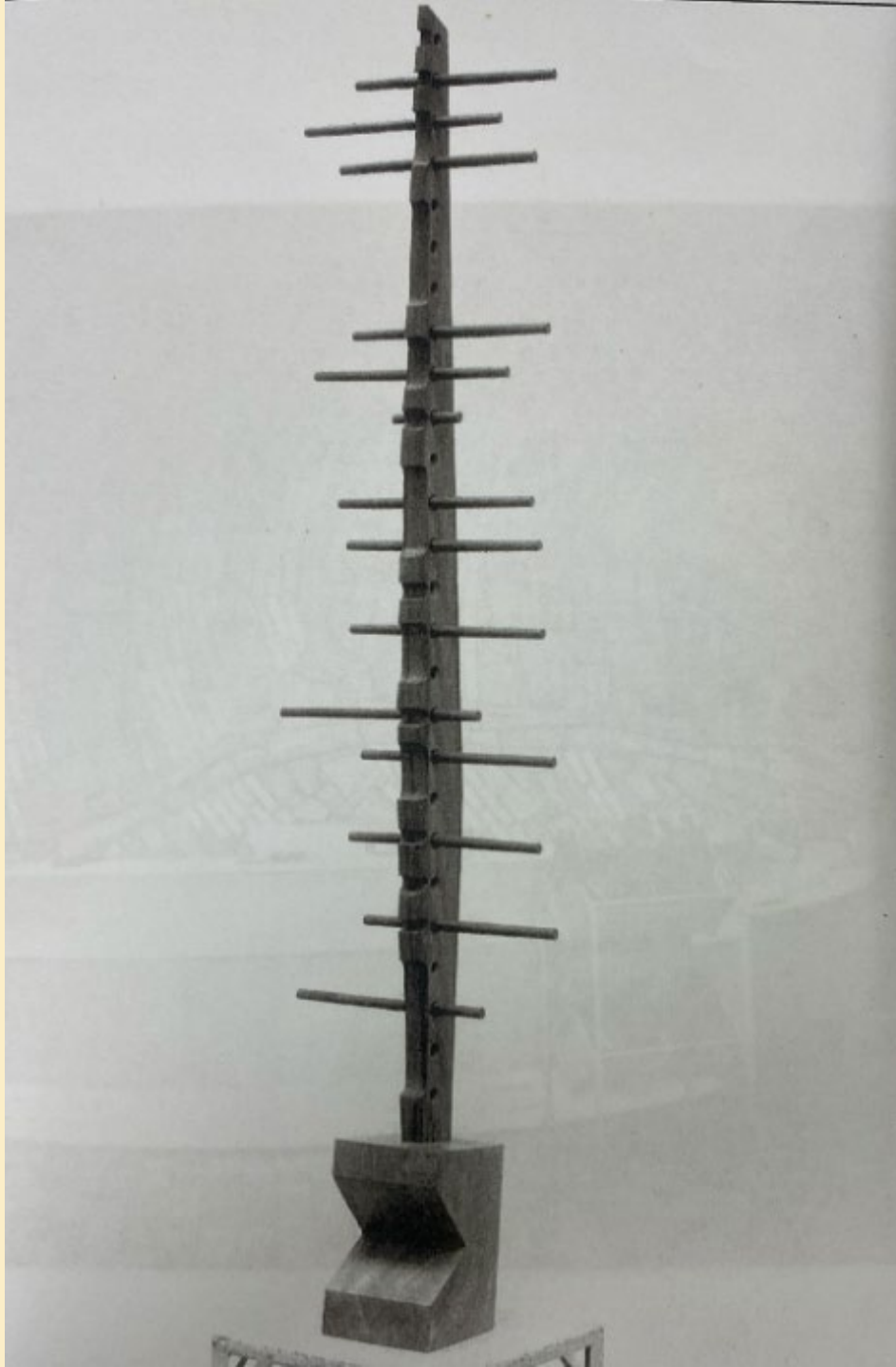
- ・ 飛騨のお祭りの楽しさ
- ・ 鳳凰の飛び立ち
- ・ 神秘的な宇宙への感激
- ・ 人工衛星
自由な見方の受け入れ



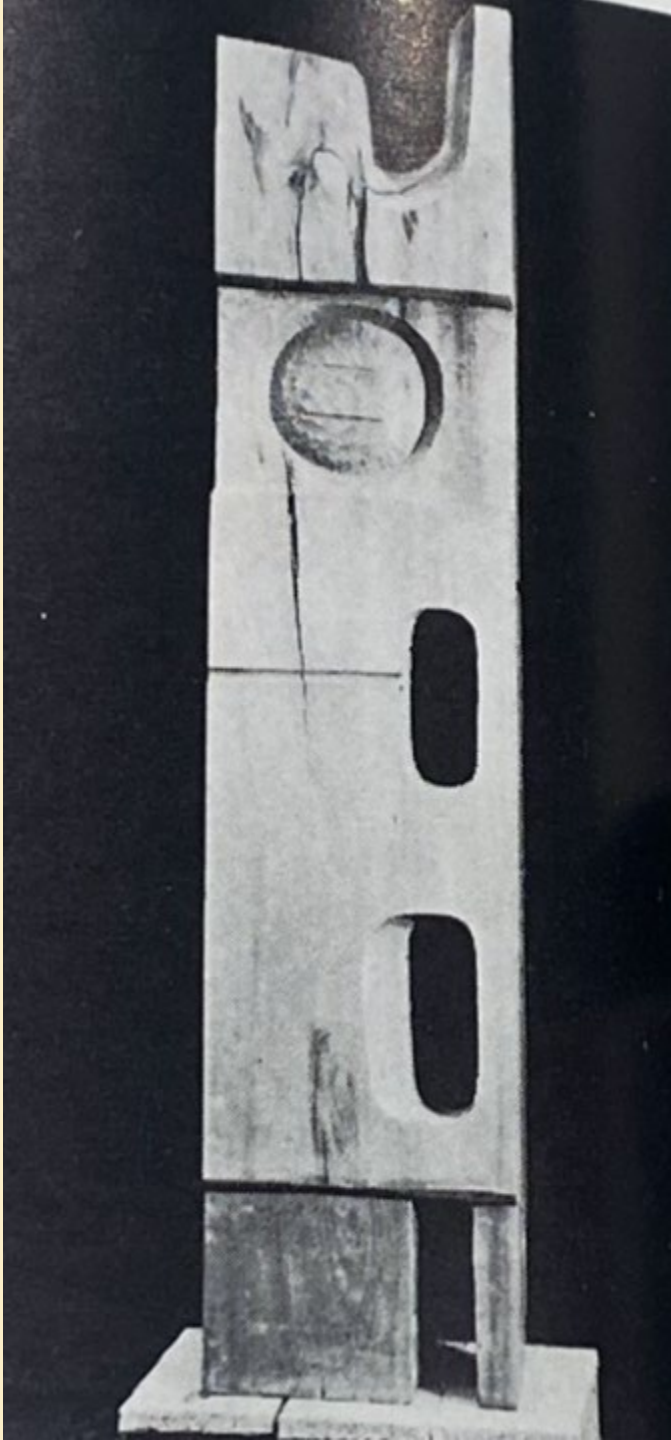
二科展作品

《甘人》
第46回二科展
1961年 32歳
6回目

二科展 作品

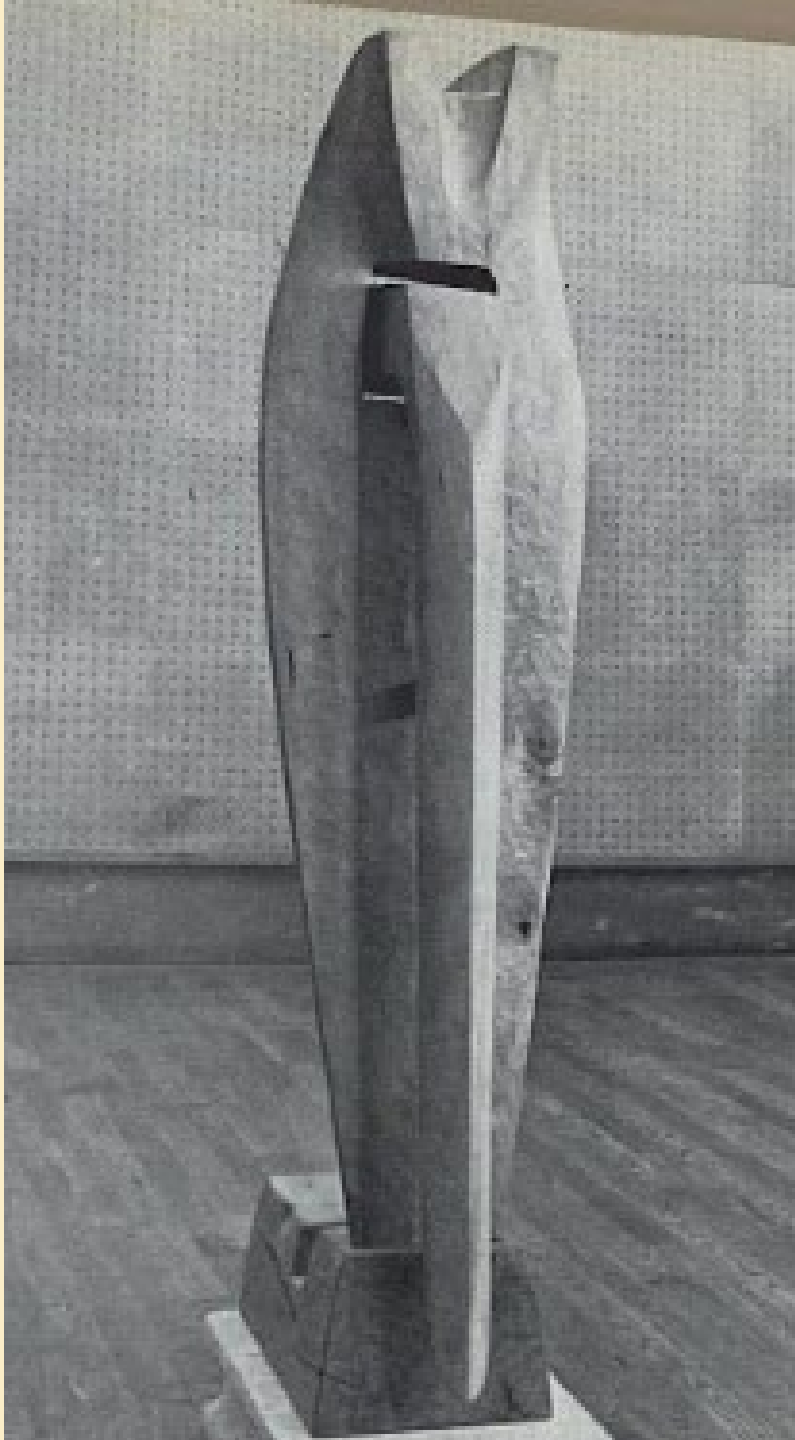


《オリンピックの記憶》
第49回二科展
1964年 35歳
9回目



二科展作品

《斐太の柱》
第50回二科展
1965年 36歳
10回目



二科展作品

《昆柱》

第51回二科展

特選

1966年 37歳

11回目



二科展作品

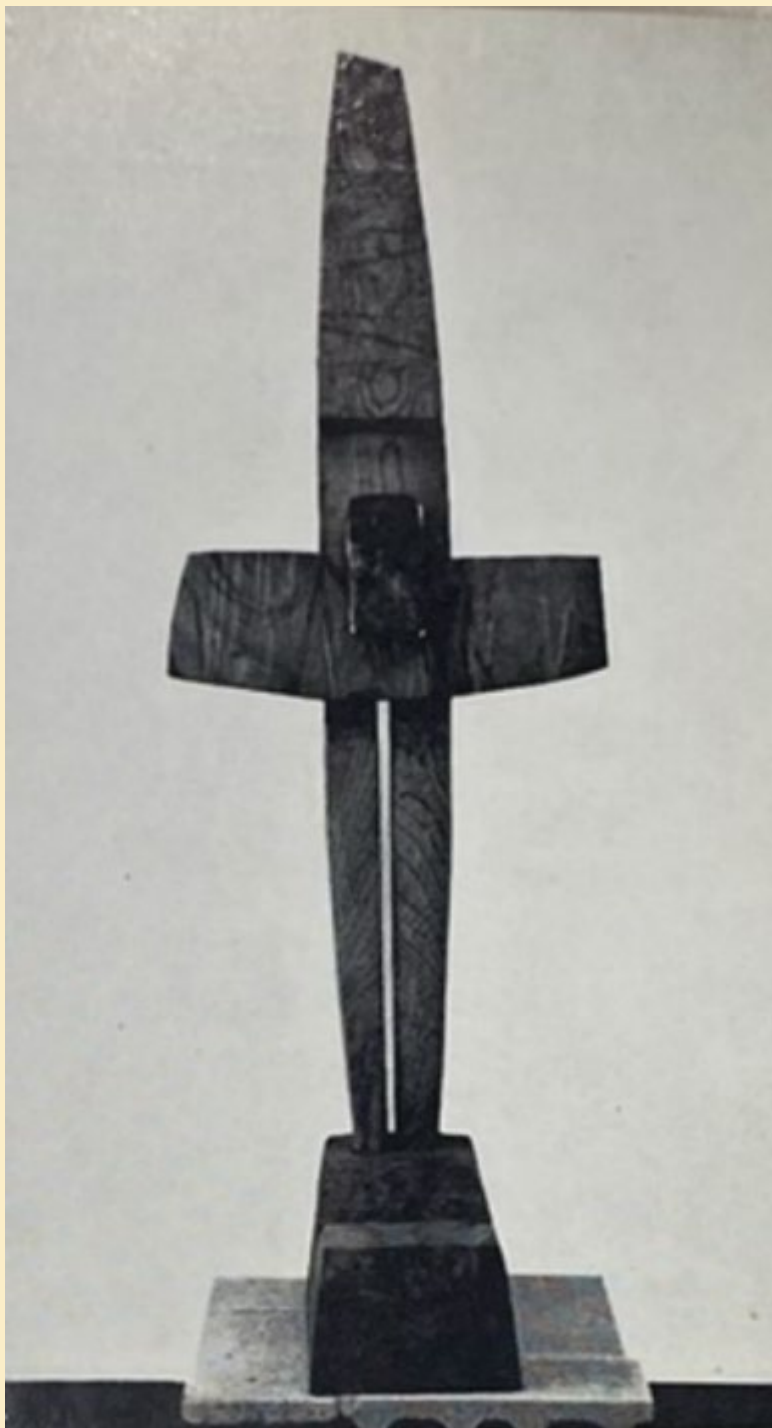
昆虫ではなく、
昆柱

《**昆柱**》

第51回二科展 特選

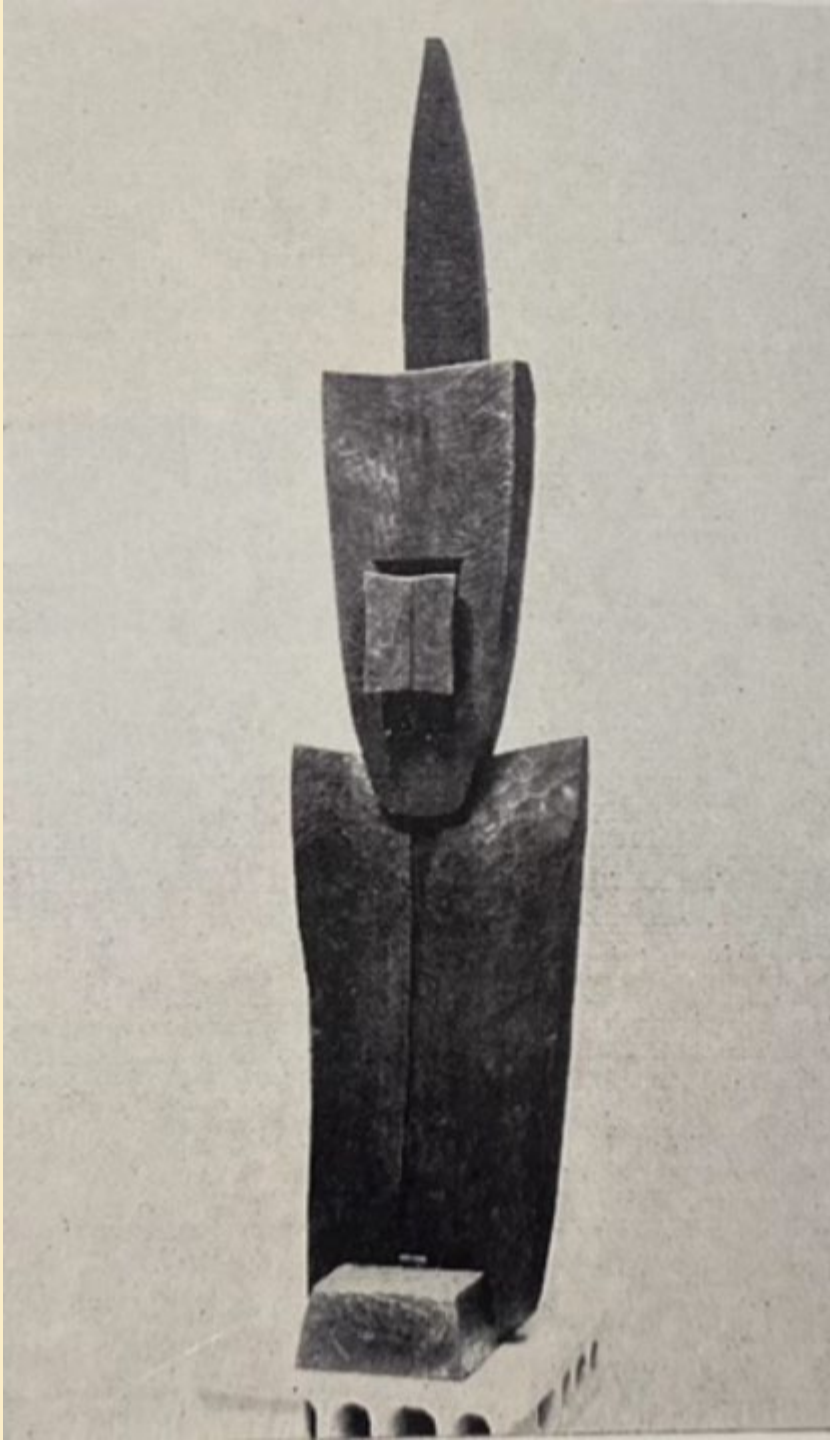
1966年 37歳

11回目



二科展作品

《小面の柱》
第53回二科展
1968年 39歳
13枚目



二科展作品

《甲冑の柱》
第54回二科展
1969年 40歳
14回目



二科展作品

《民話の柱》
第55回二科展
1970年 41歳
15回目

会友推挙



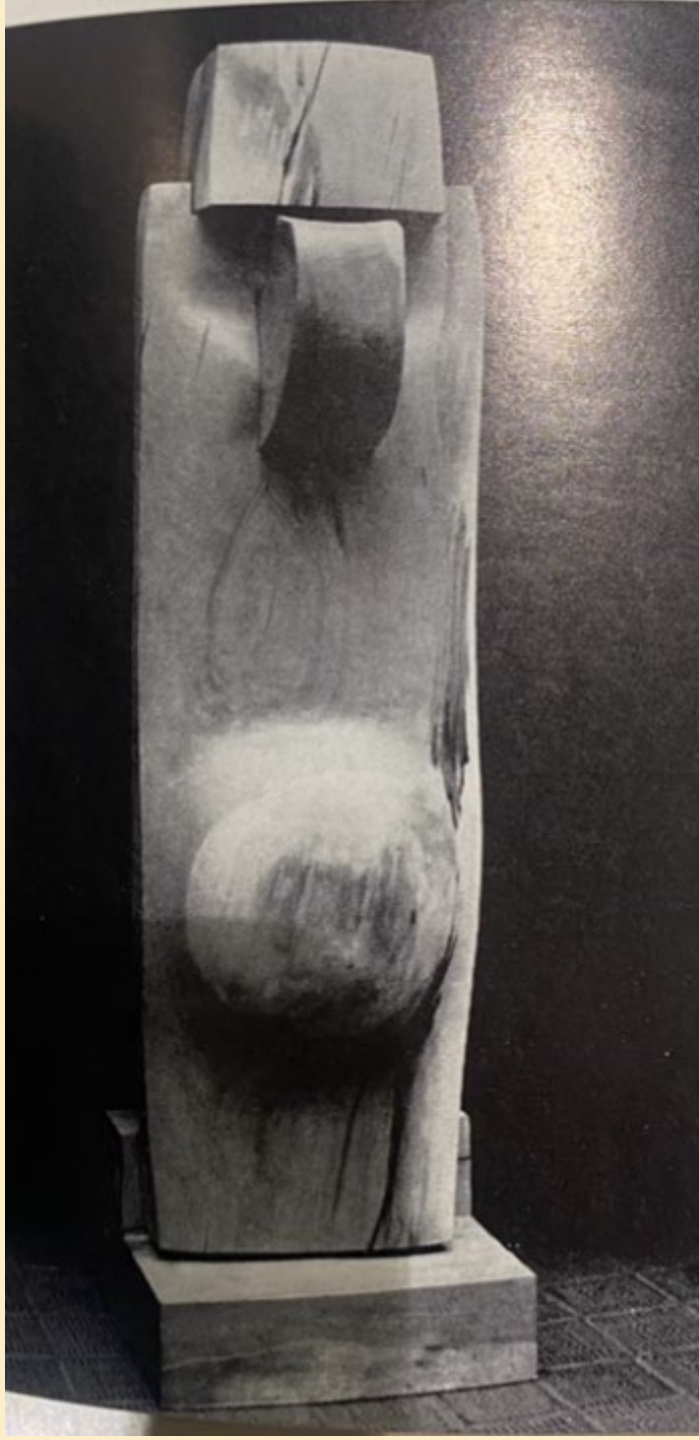
二科展作品

《たまゆら》
第56回二科展
1971年 42歳
16回目



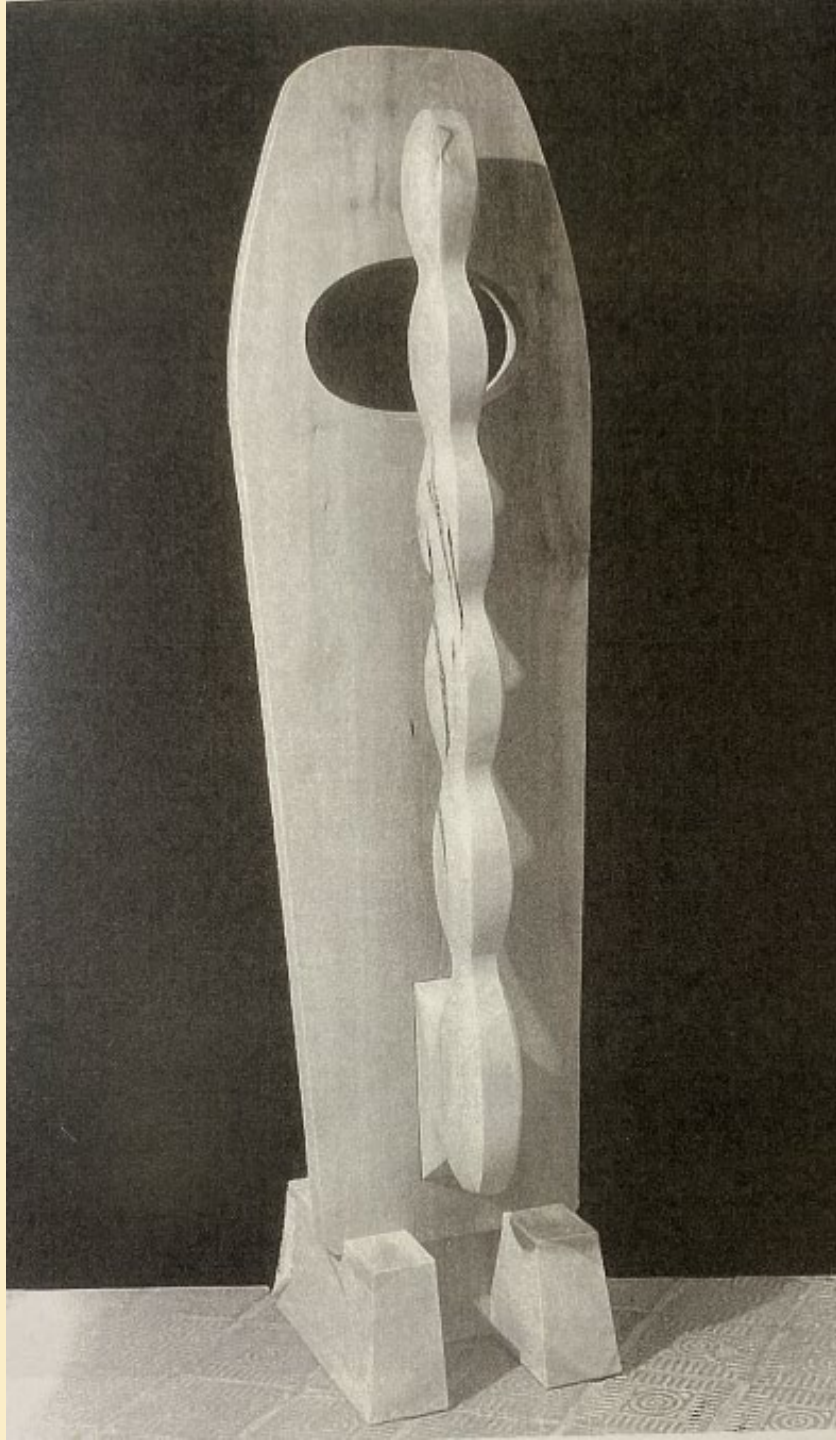
二科展作品

《たまゆら》
第56回二科展
1971年 42歳
16回目



二科展作品

《珠の旗》
第57回二科展
1972年 43歳
17回目



二科展作品

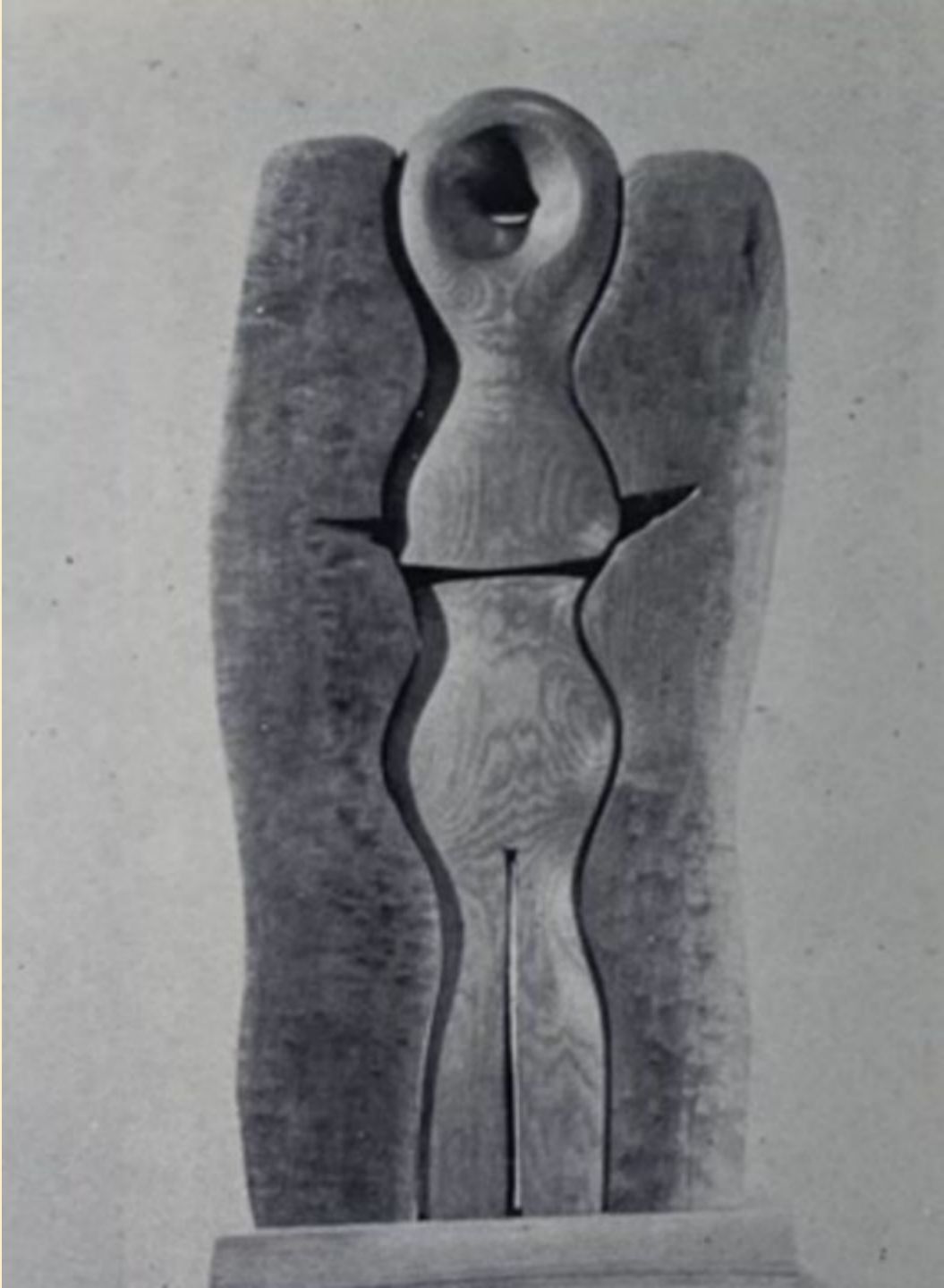
《塔柱》
第58回二科展
1973年 44歳
18回目



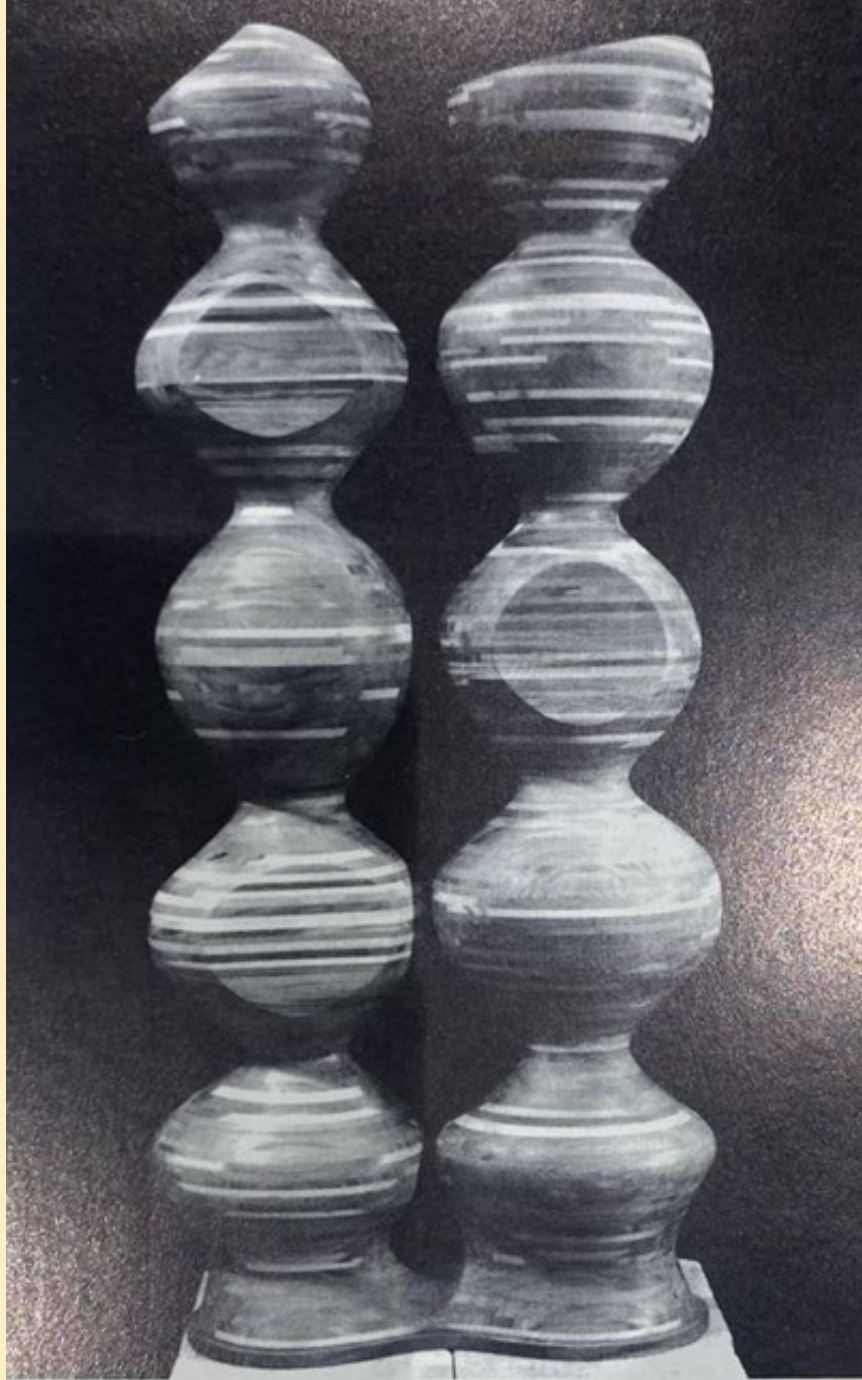
二科展作品

《二人のすきま》
第59回二科展
1974年 45歳
19回目

二科展作品



《紋空》
第60回二科展
1975年 46歳
20回目



二科展作品

《六句無工》
第61回二科展
1976年 47歳
21回目

六句「六句義」→ インドの哲学用語

世界の存在原理 実・徳・業・同異・特異・和合

無工 → 功績がないこと

→ 手柄がないこと



《六句無工》
第61回二科展
1976年 47歳
21回目



図録 評論

「串刺し団子か提燈か、
ゆらりくねりと立ち登る。
下はぴったりくっついて、
上に行くほど離れゆく。
ちょっぴりとくっついた
下の二つが憎らしい」

二科展作品

※学会では
《六句無工》と発表しましたが、正しくは
《無九無工》でした。
2026年1月5日

《無九無工》
第62回二科展
1977年 48歳
22回目





二科展作品

※学会では
《古風人》と発表しましたが、
正しくは
《木風人》でした。
2026年1月5日

《木風人》
第63回二科展
1978年 49歳
23回目



二科展作品

《笛仁久寿》
第64回二科展
1979年 50歳
24回目

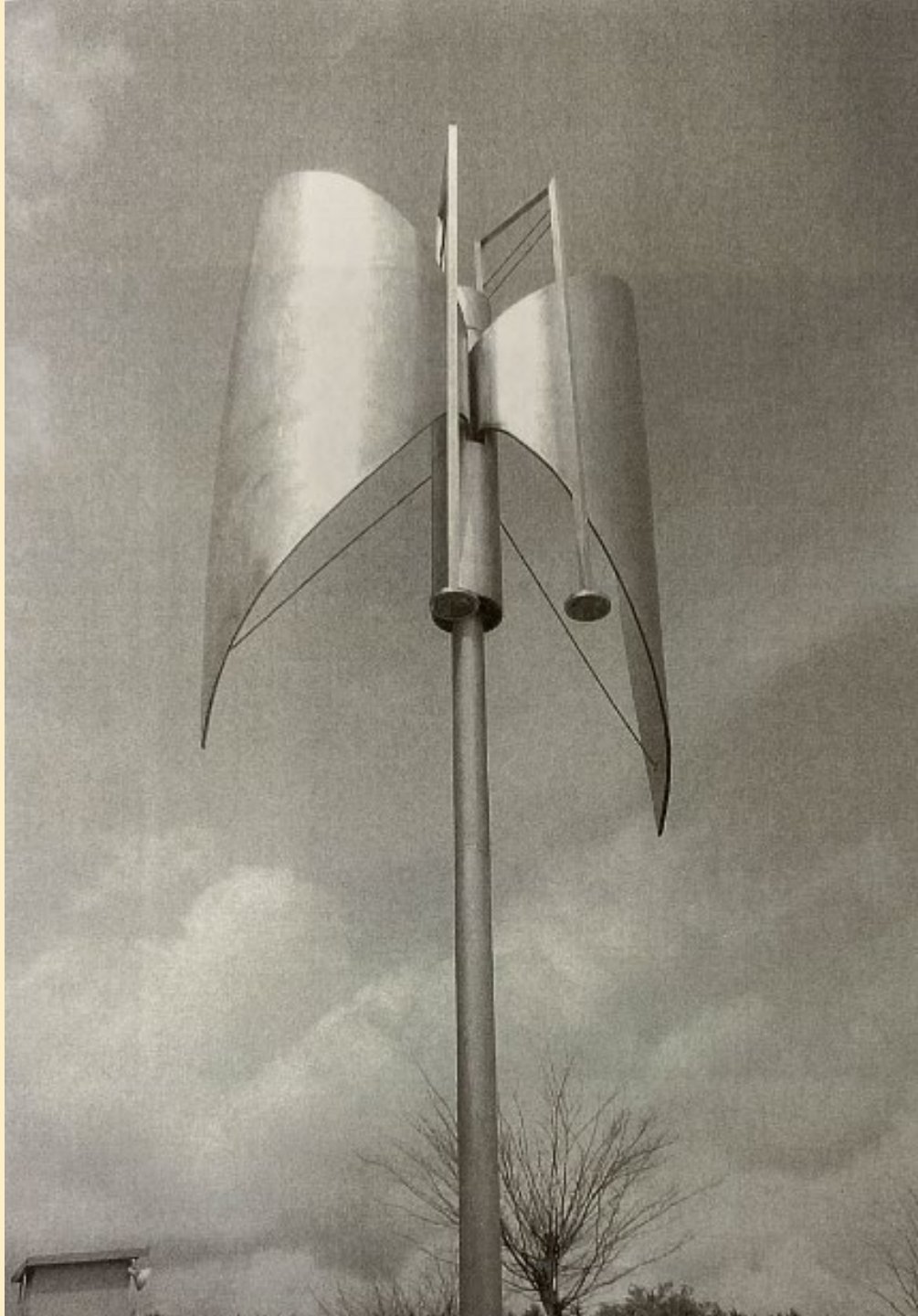


二科展作品

フェニックス→ 古代エジプトの想像上の鳥
不死鳥と訳される



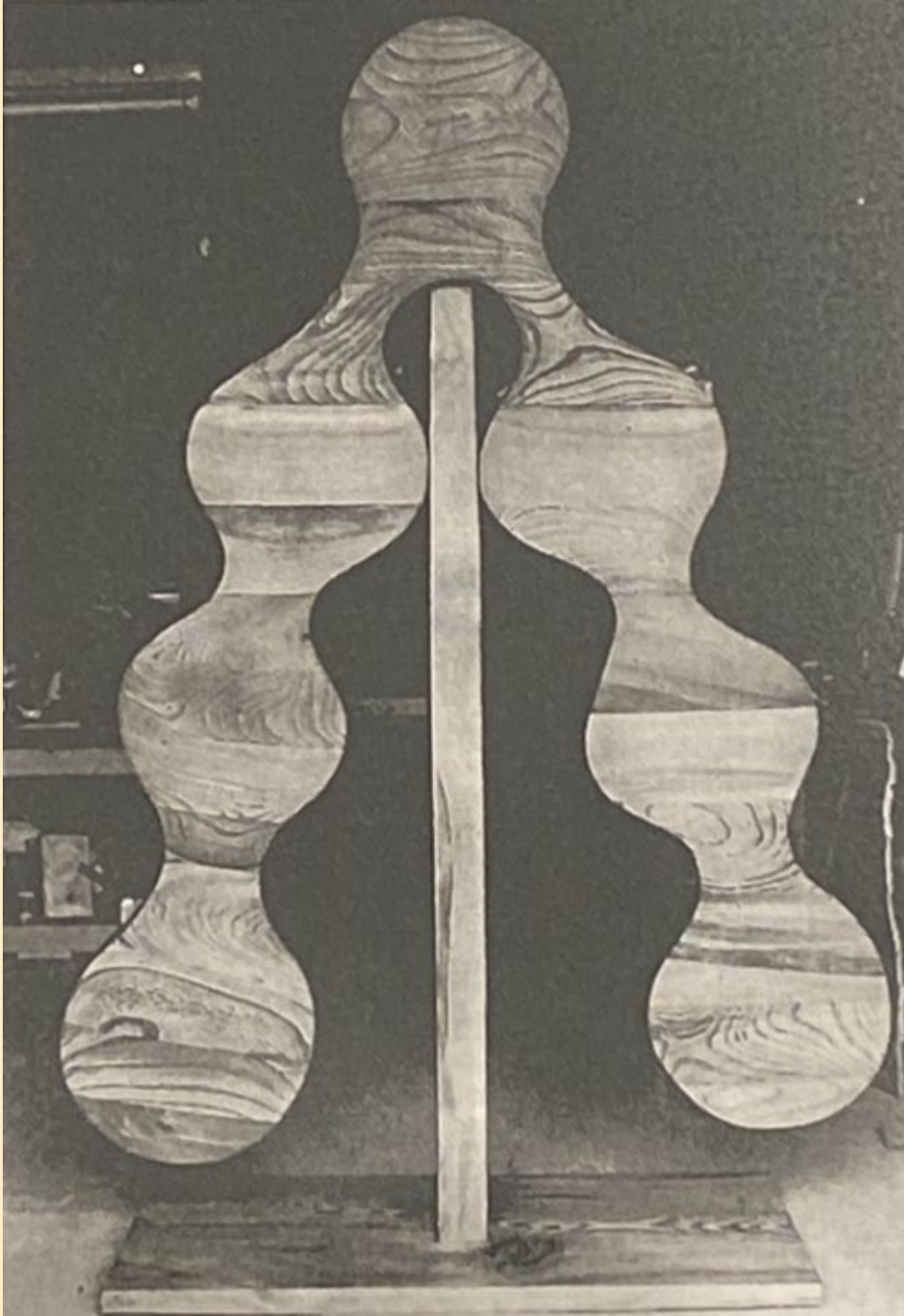
《笛仁久寿》
第64回二科展
1979年 50歳
24回目



公共作品

《飛翔》
高山市立中山競技場

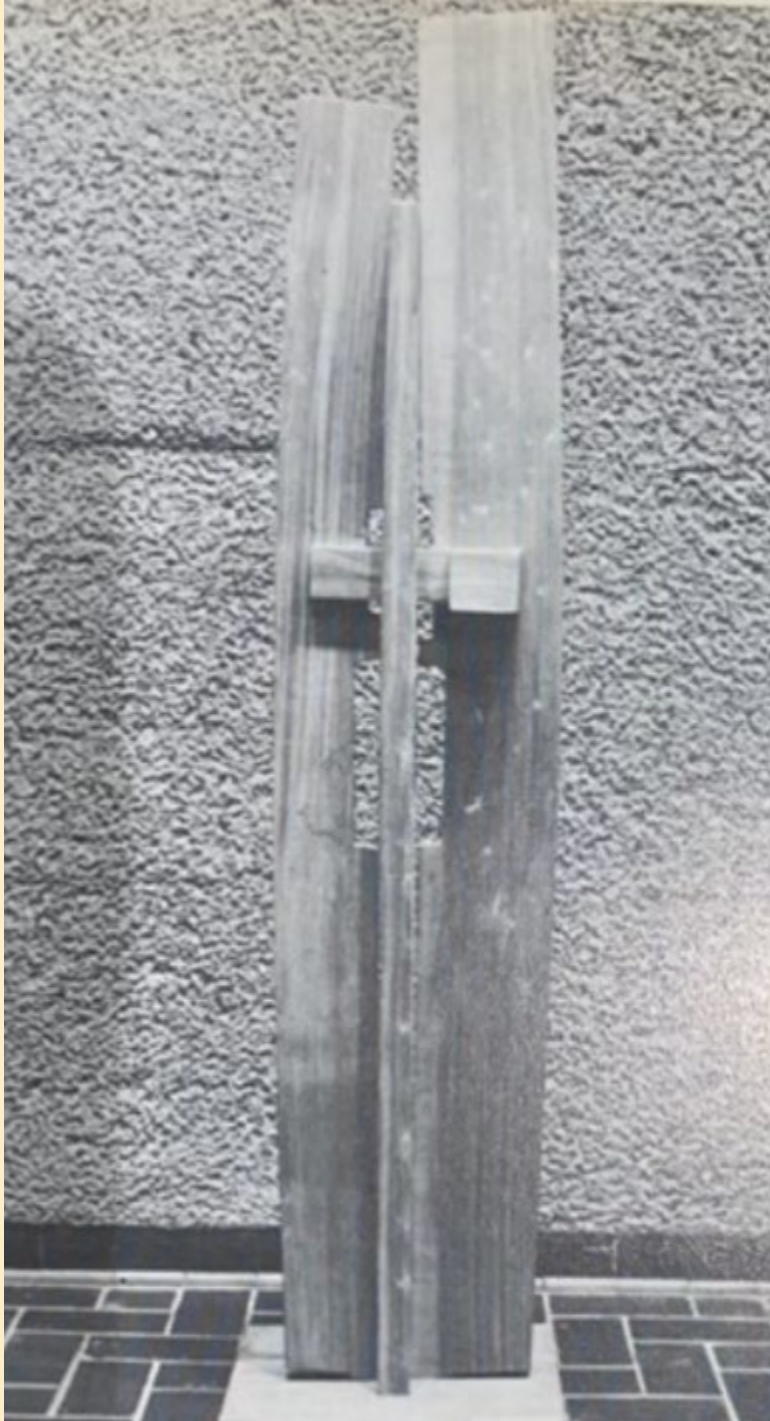
1979年 50歳



二科展作品

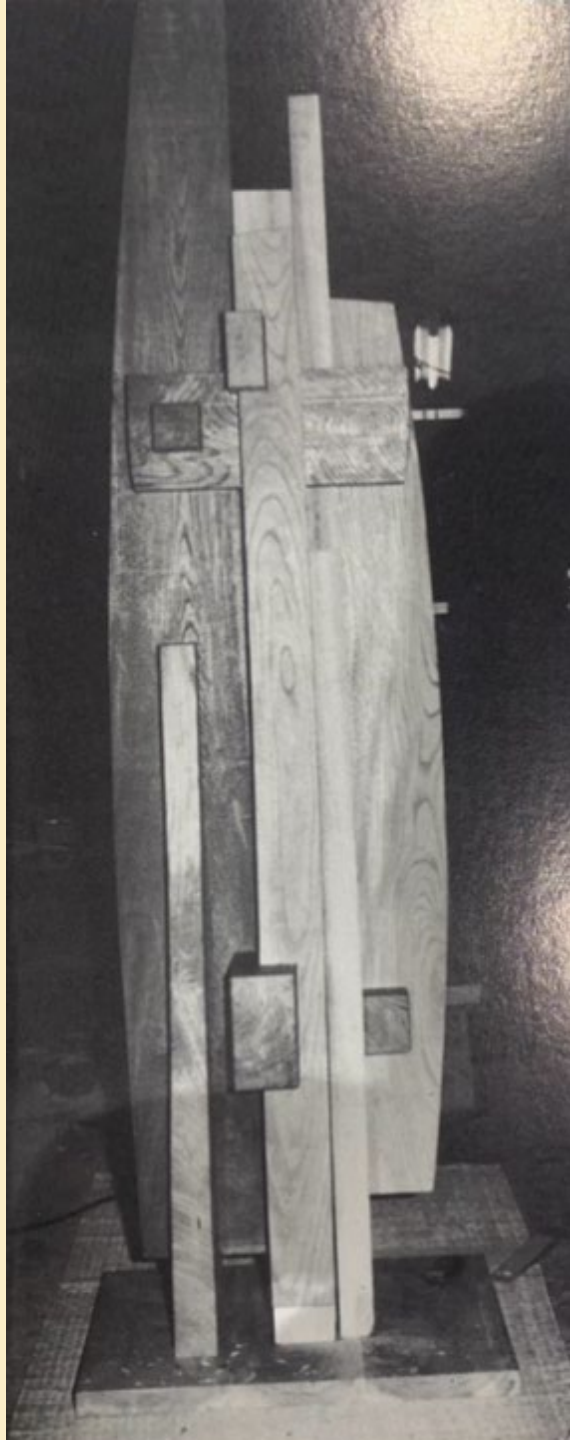
※学会では
《古風人》と発表しましたが、
正しくは
《木風人》でした。
2026年1月5日

《木風人》
第65回二科展
1980年 51歳
25回目



二科展作品

《軍配》
第66回二科展
1981年 52歳
26回目



二科展作品

《コンポジション集》
第67回二科展 会友賞
1982年 53歳
27回目



公共彫刻

《神の道》1982年
建設省高山国道工事事務所



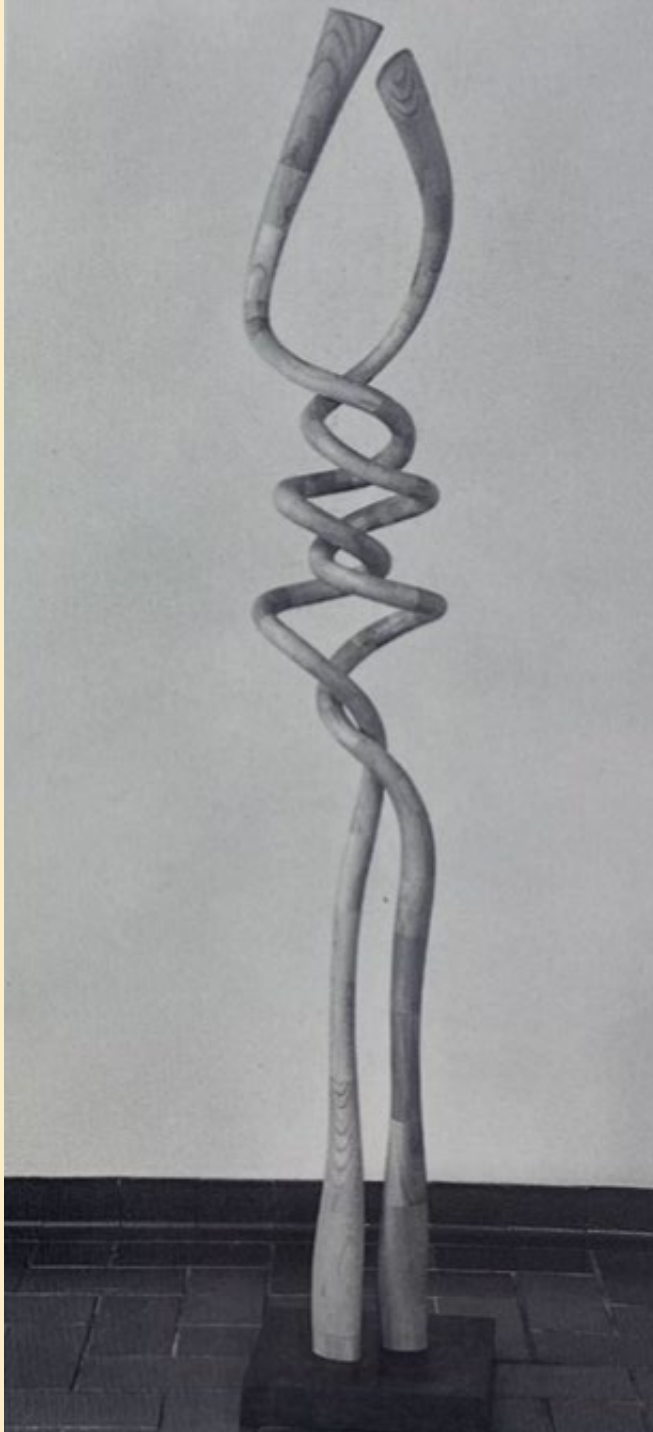
二科展作品

《呂棒塔》
第68回二科展
1983年 54歳
28回目



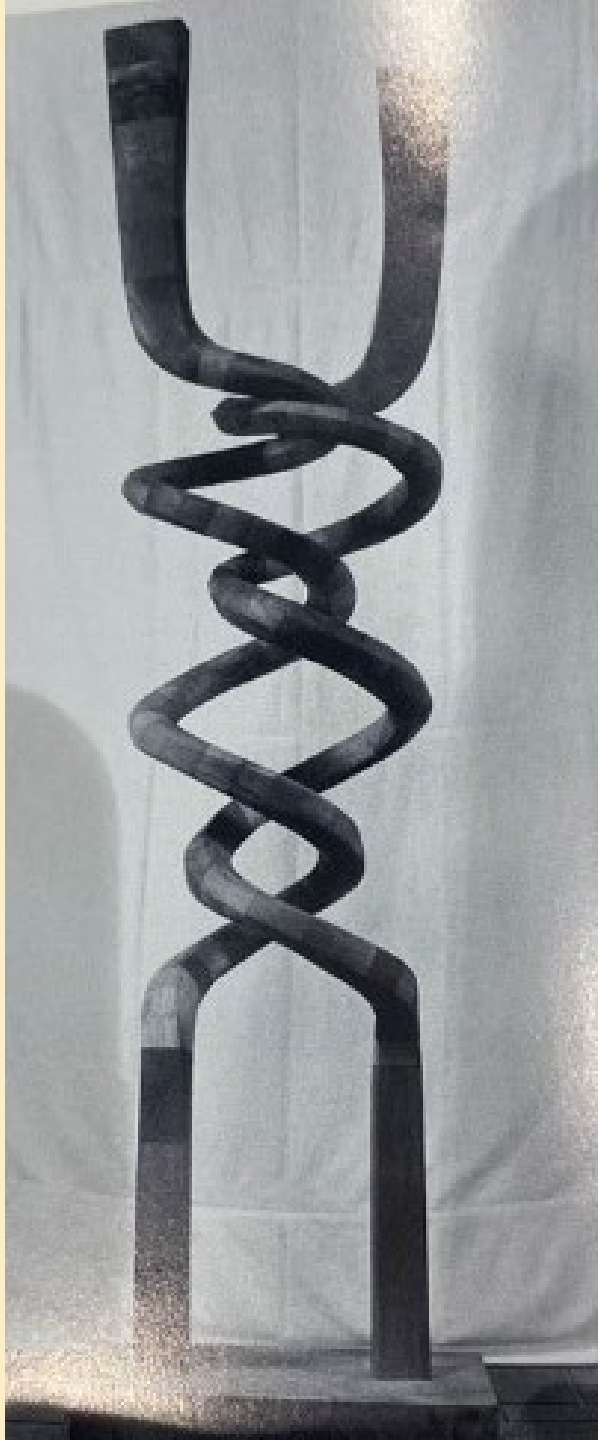
二科展作品

《祭日》
第69回二科展
1984年 55歳
29回目



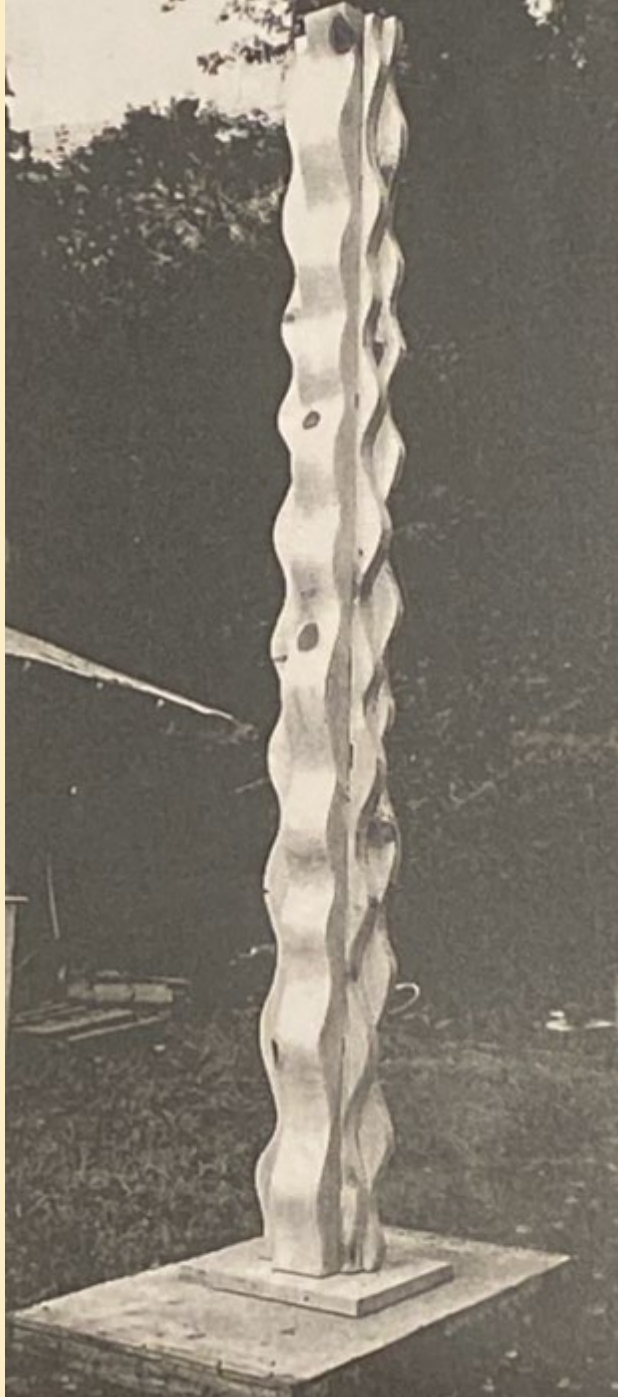
二科展作品

《しがらみ》
第70回二科展
1985年 56歳
30回目



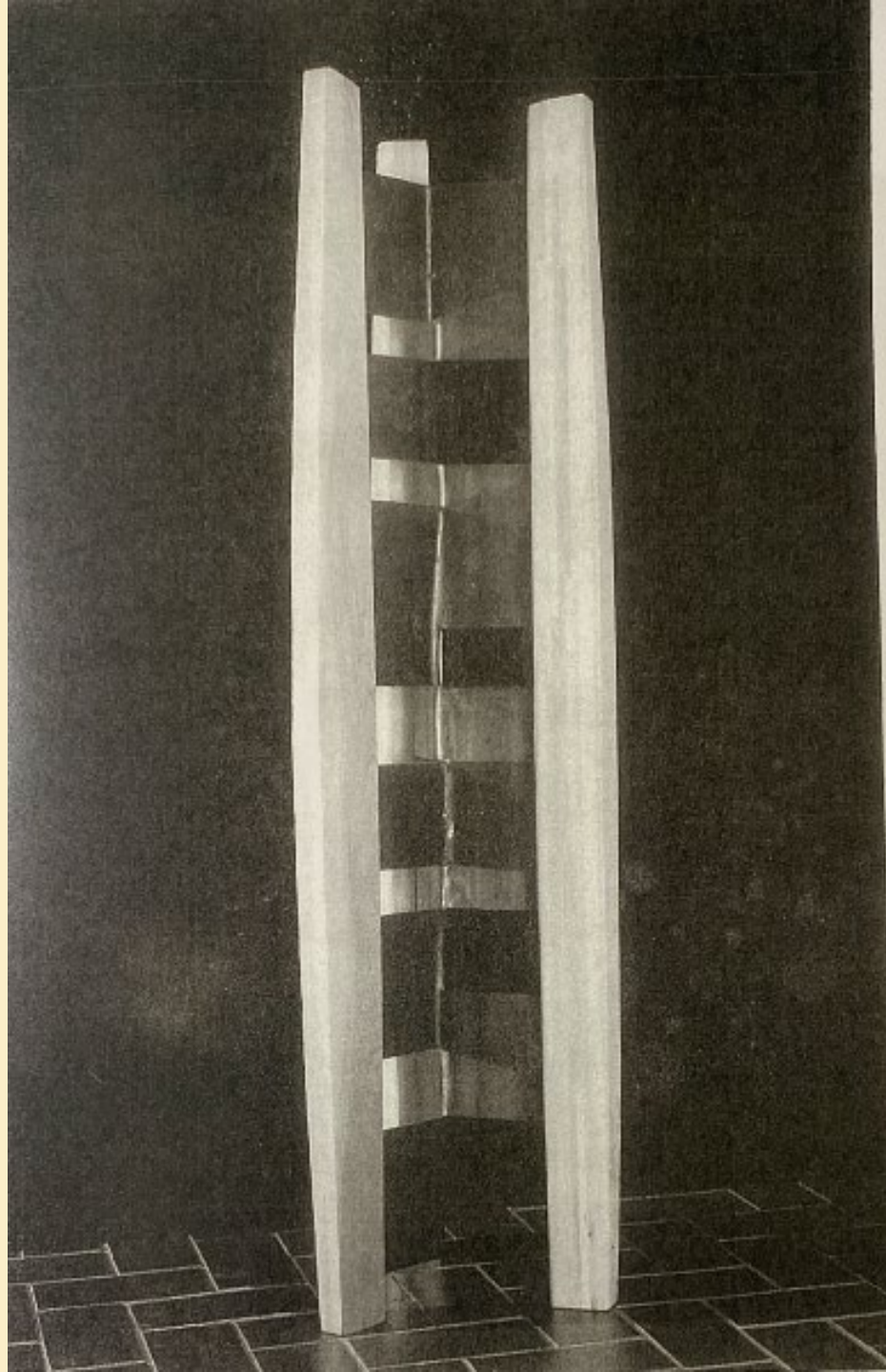
二科展作品

《師画螺見》
第71回二科展
1986年 57歳
31回目



二科展作品

《波光》
第72回二科展
1987年 58歳
32回目

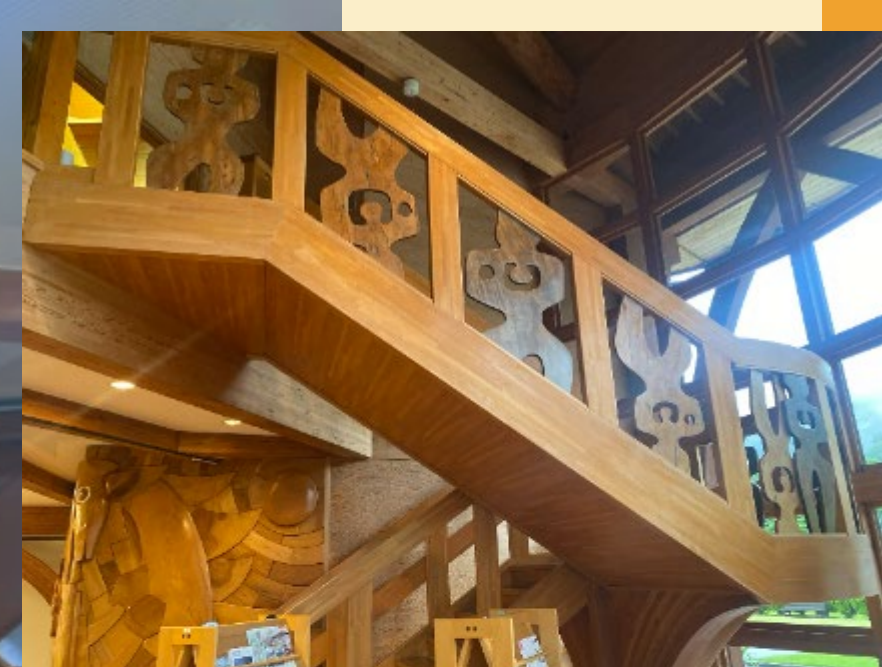


二科展作品

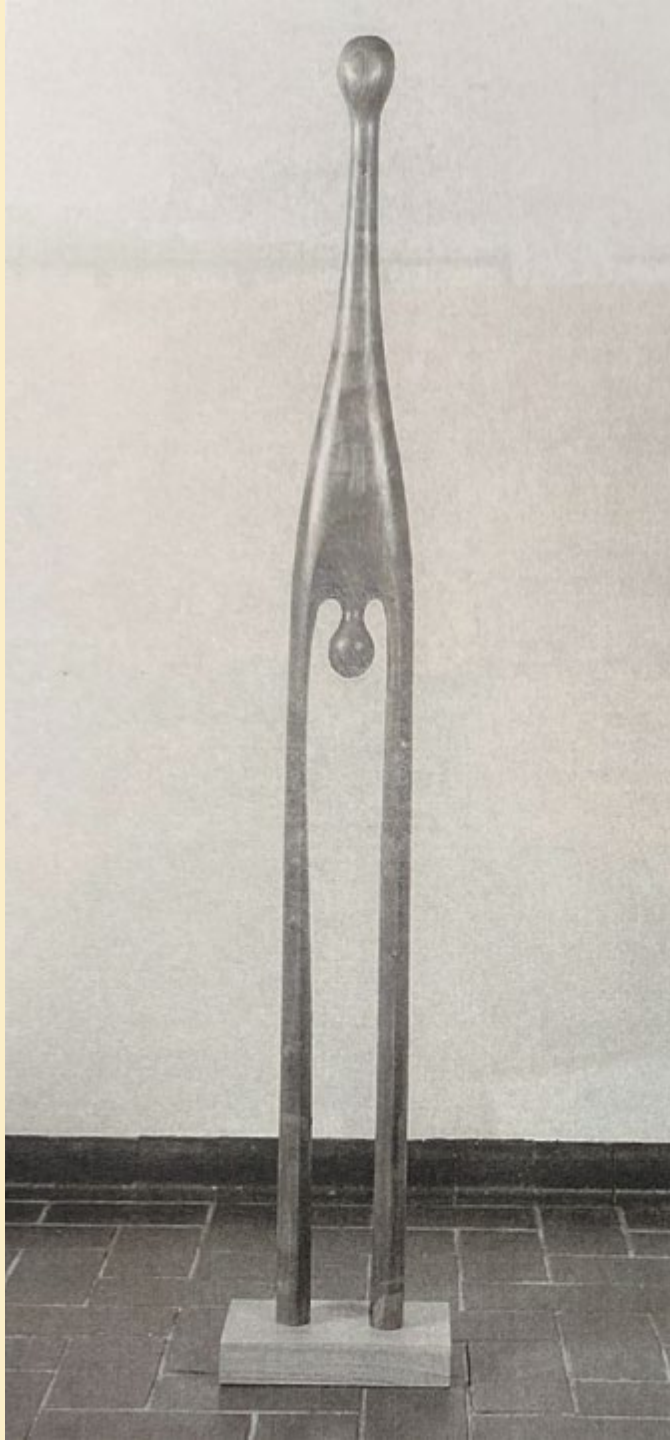
《密なる関係》
第73回二科展
1988年 59歳
33回目



公共彫刻



《彫壁》 《木彫手摺》 1988年
清見町ウッドフォーラム

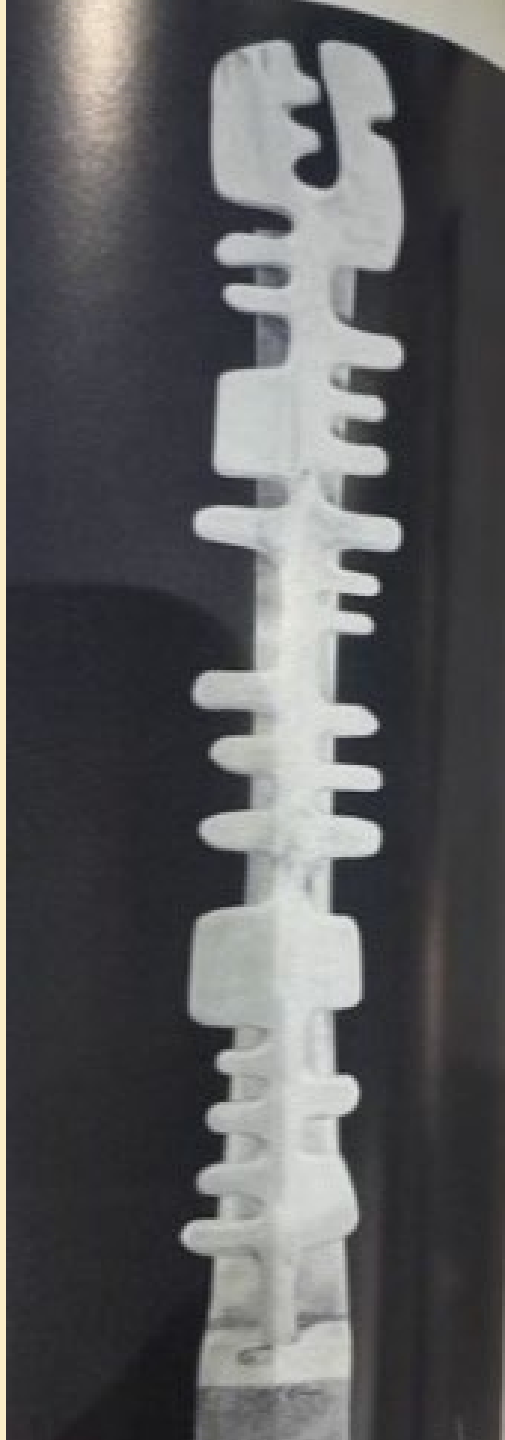


二科展作品

《珠の人》
第74回二科展
1989年 60歳
34回目

二科展作品

《私のオブジェコレクション》
第75回二科展
1990年 61歳
35回目

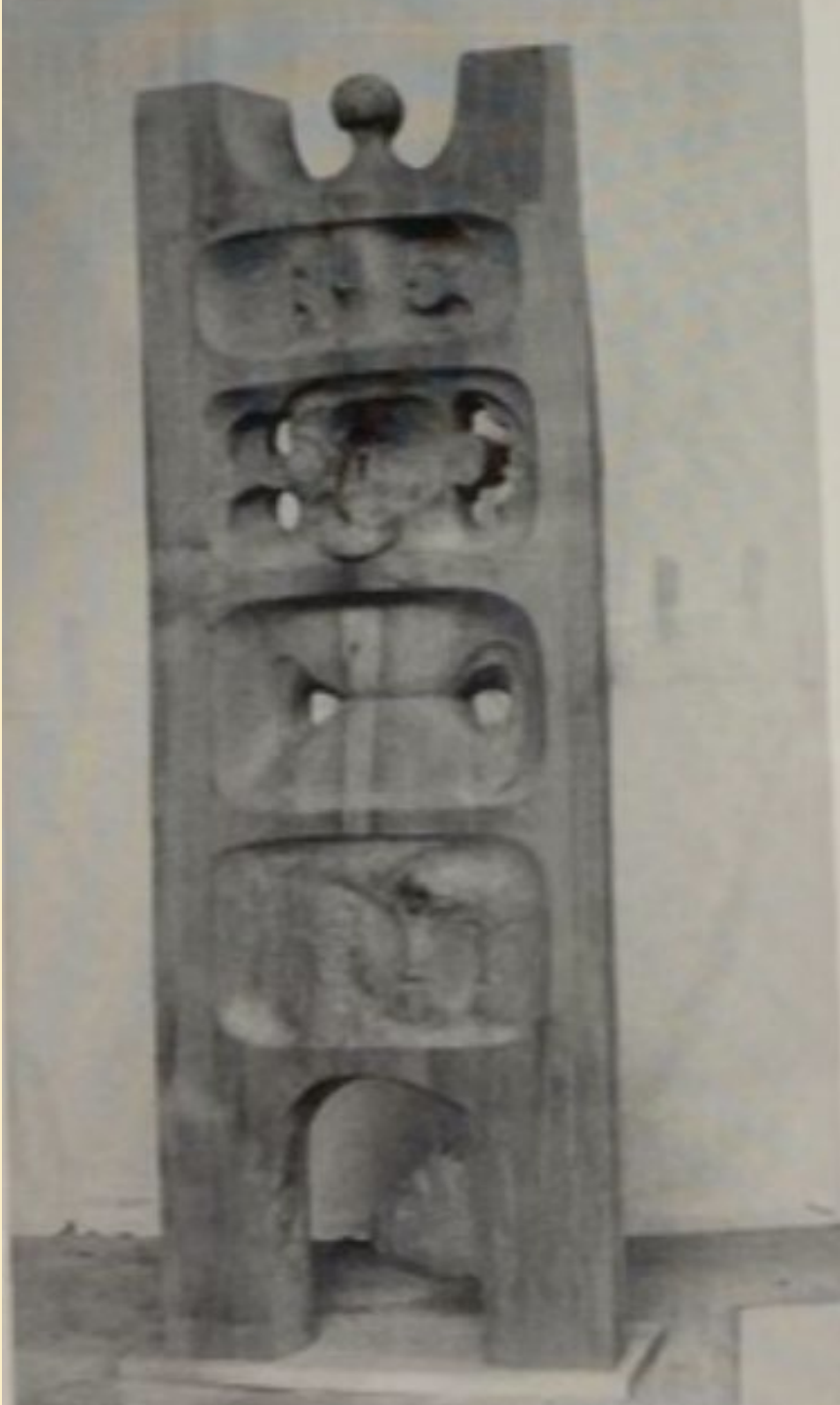


公共彫刻

《円想》 1990年

旧・高山赤十字看護専門学校





二科展作品

《斐太の土俗》

76回二科展

1991年 62歳

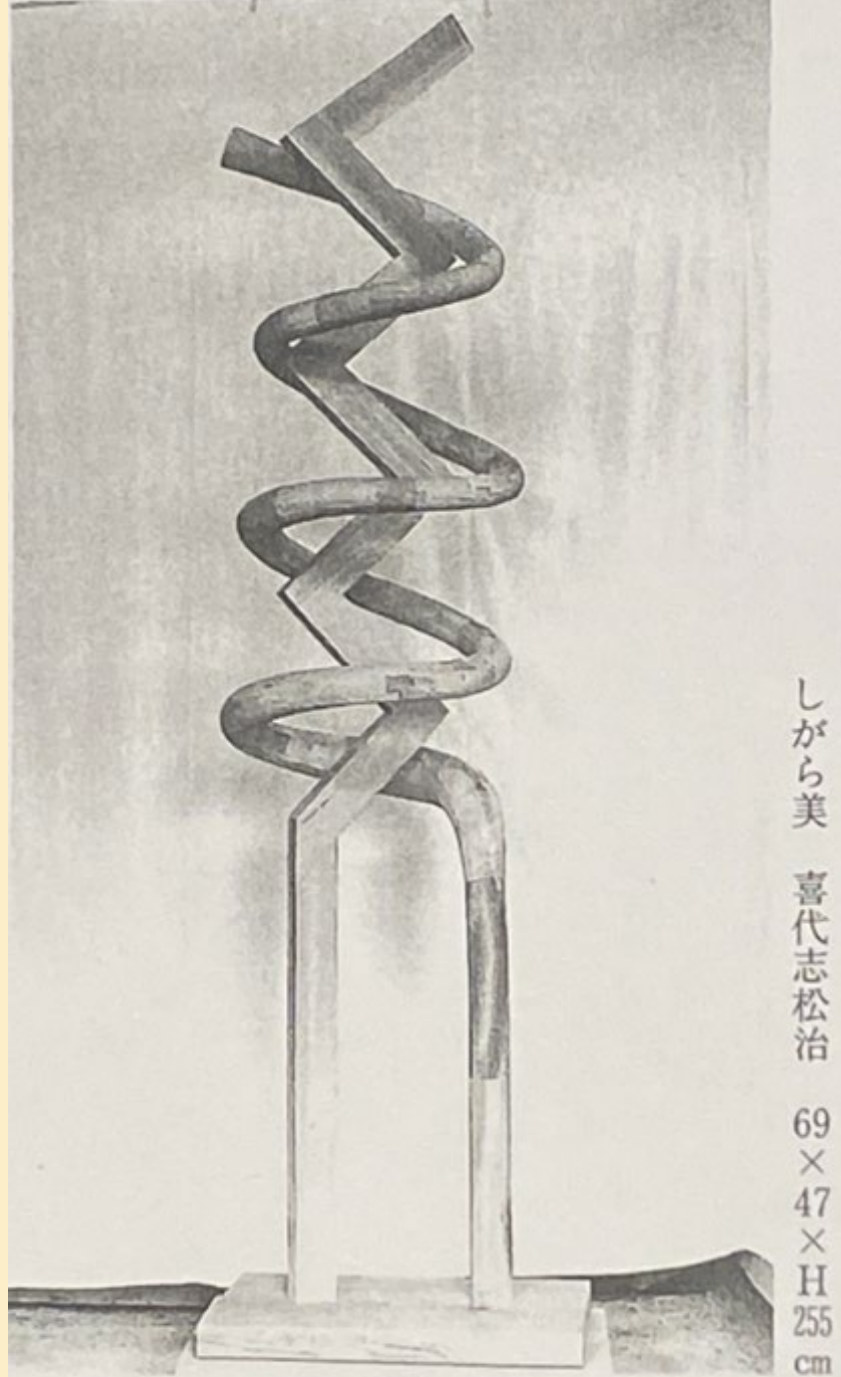
36回目



二科展作品

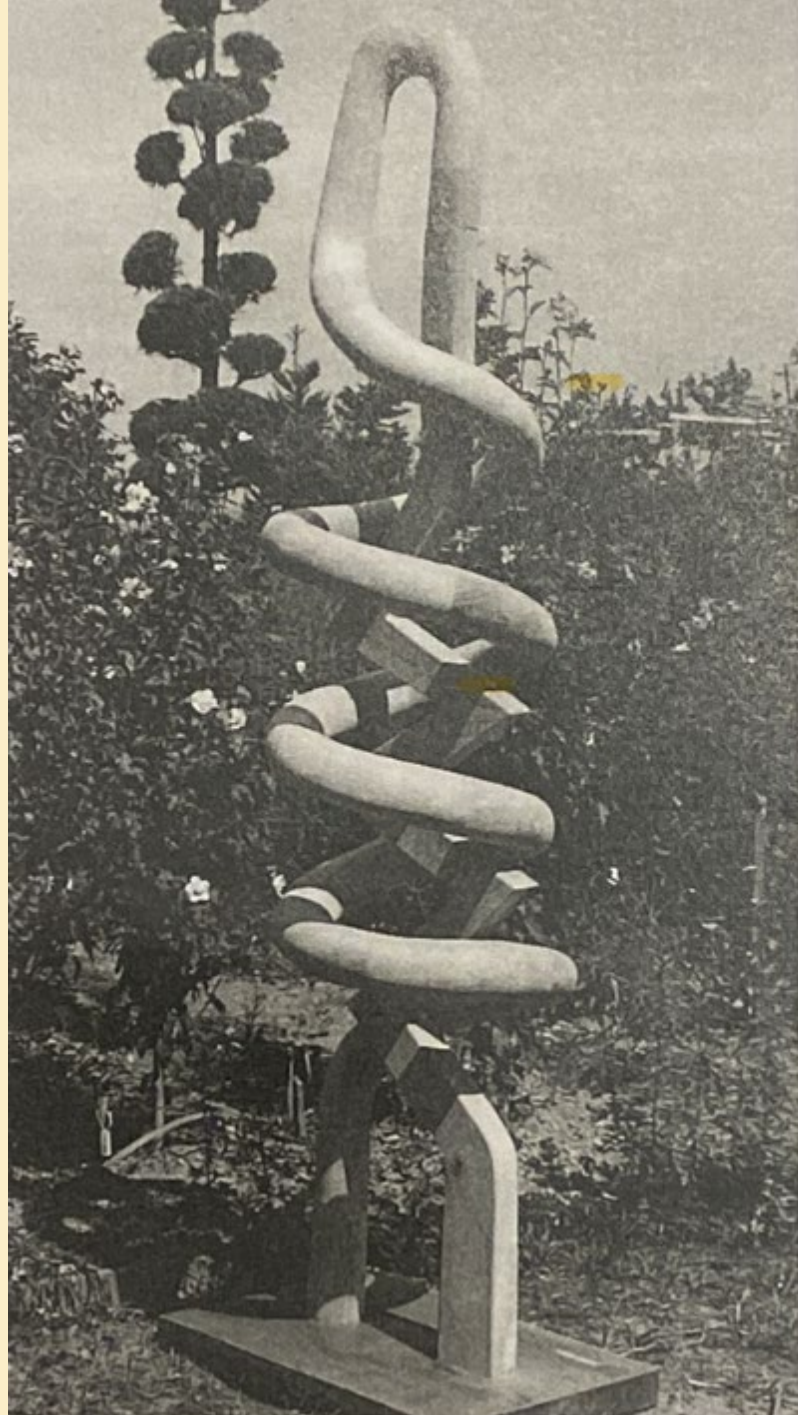
《プロペラペラペラ》
第77回二科展
1992年 63歳
37回目

二科展作品



《しがら美》
第78回二科展
1993年 64歳
38回目

二科展作品



等線と治具作

喜代志松治

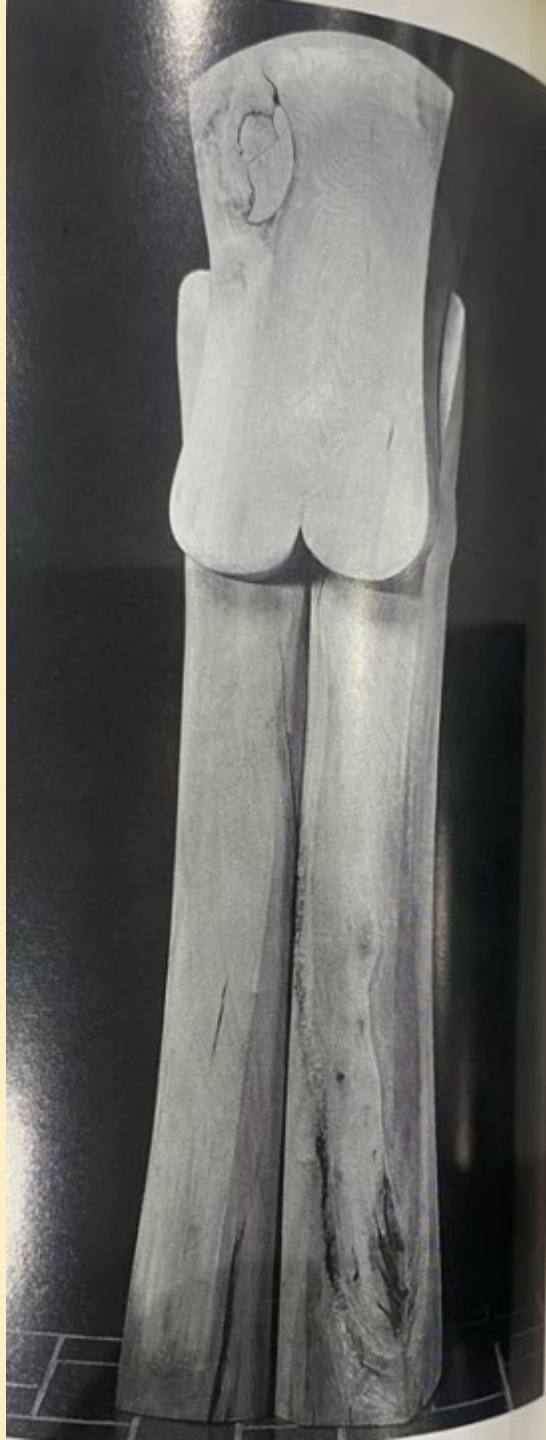
H 220
× 70
× 45
cm

《等線と治具作》
第79回二科展
1994年 65歳
39回目



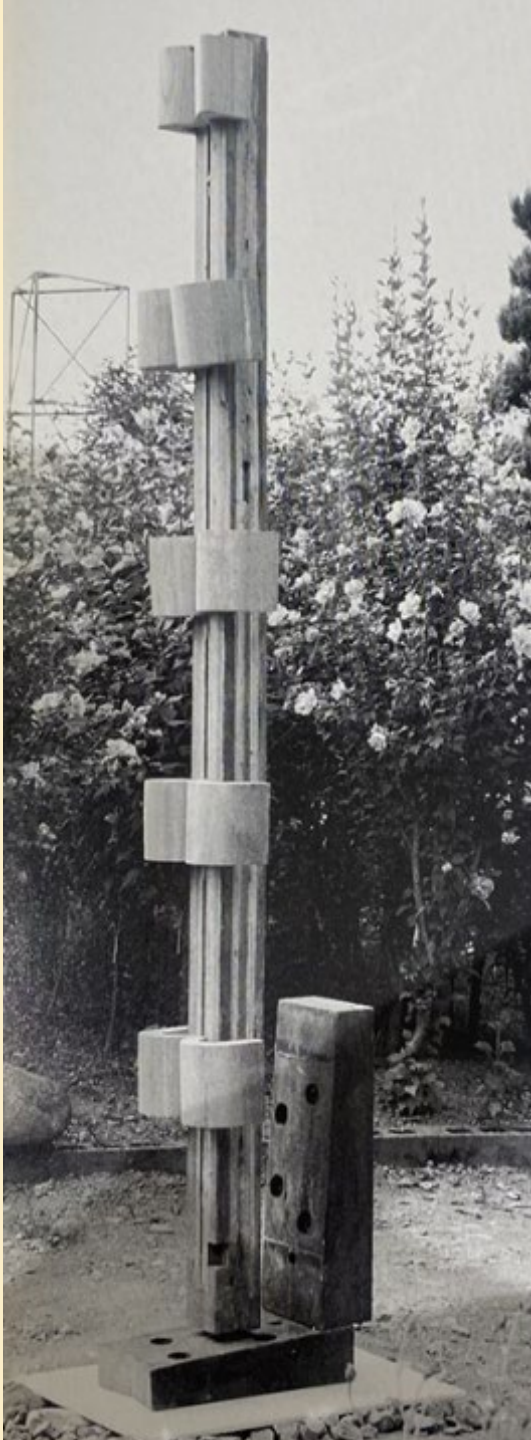
二科展作品

《止理》
第80回二科展
1995年 66歳
40回目



二科展作品

《知愛の人》
第81回二科展
1996年 67歳
41回目



二科展作品

《巴阿津》
第82回二科展
1997年 68歳
42回目

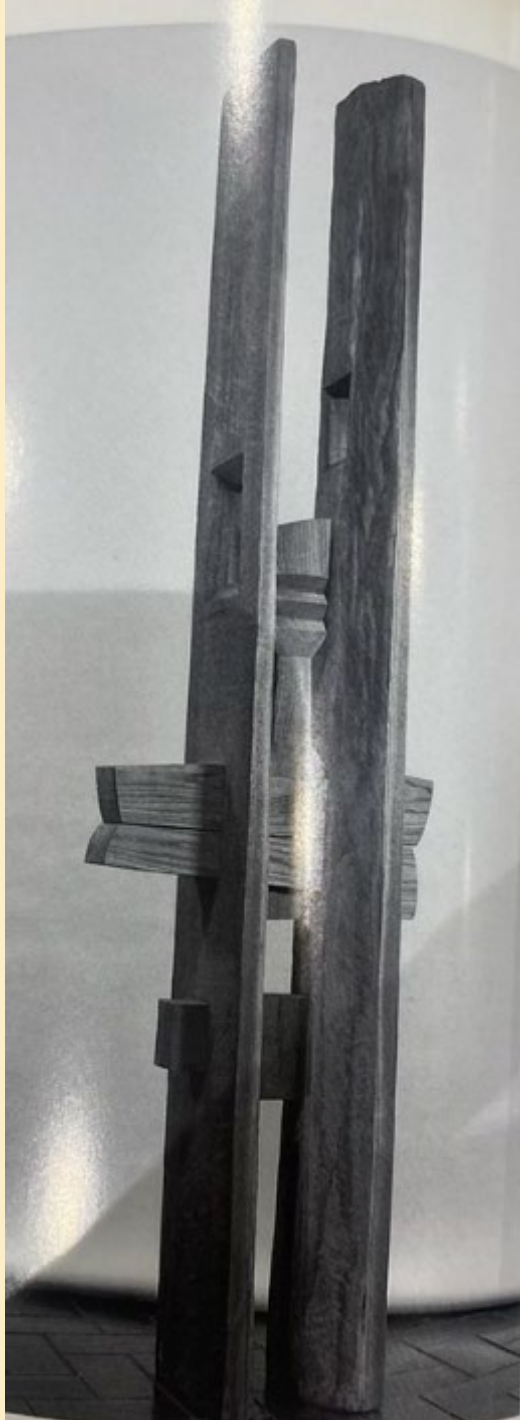


公共彫刻

《太陽と歯車》

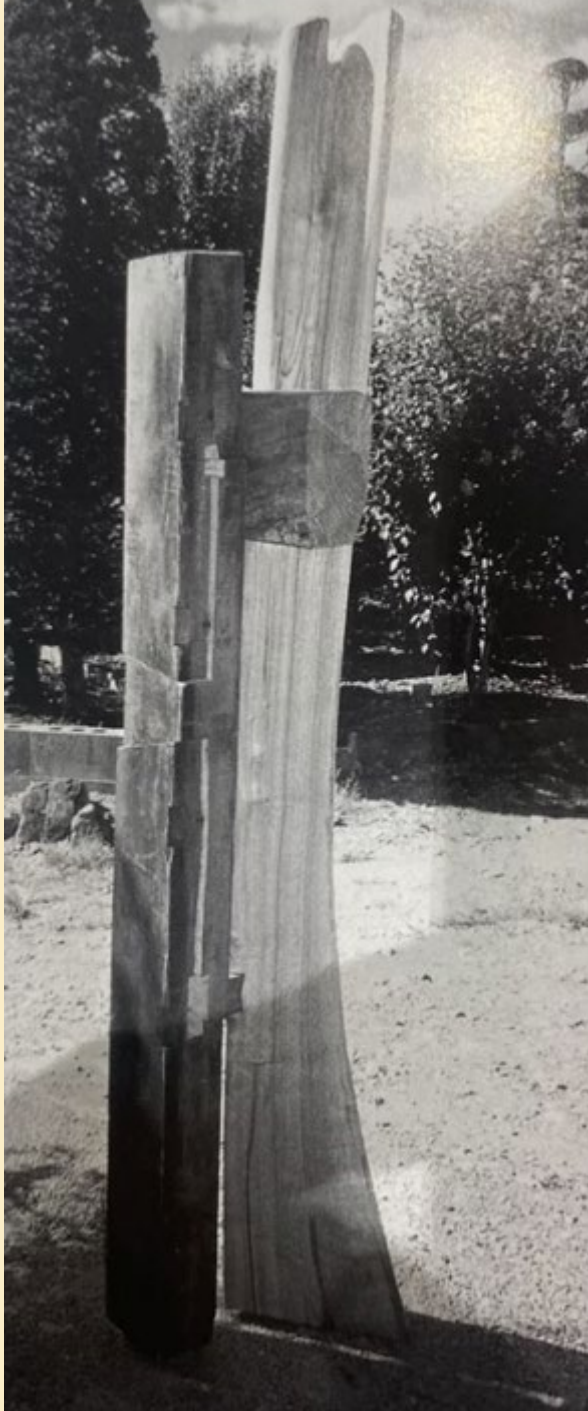
喜代志松治作
小島政一漆工

高山市庁舎議事堂
1997年



二科展作品

《黄組津印》
第83回二科展
1998年 69歳
43回目



二科展作品

《新九津院》
シンキュツイン
第84回二科展
1999年 70歳
44回目

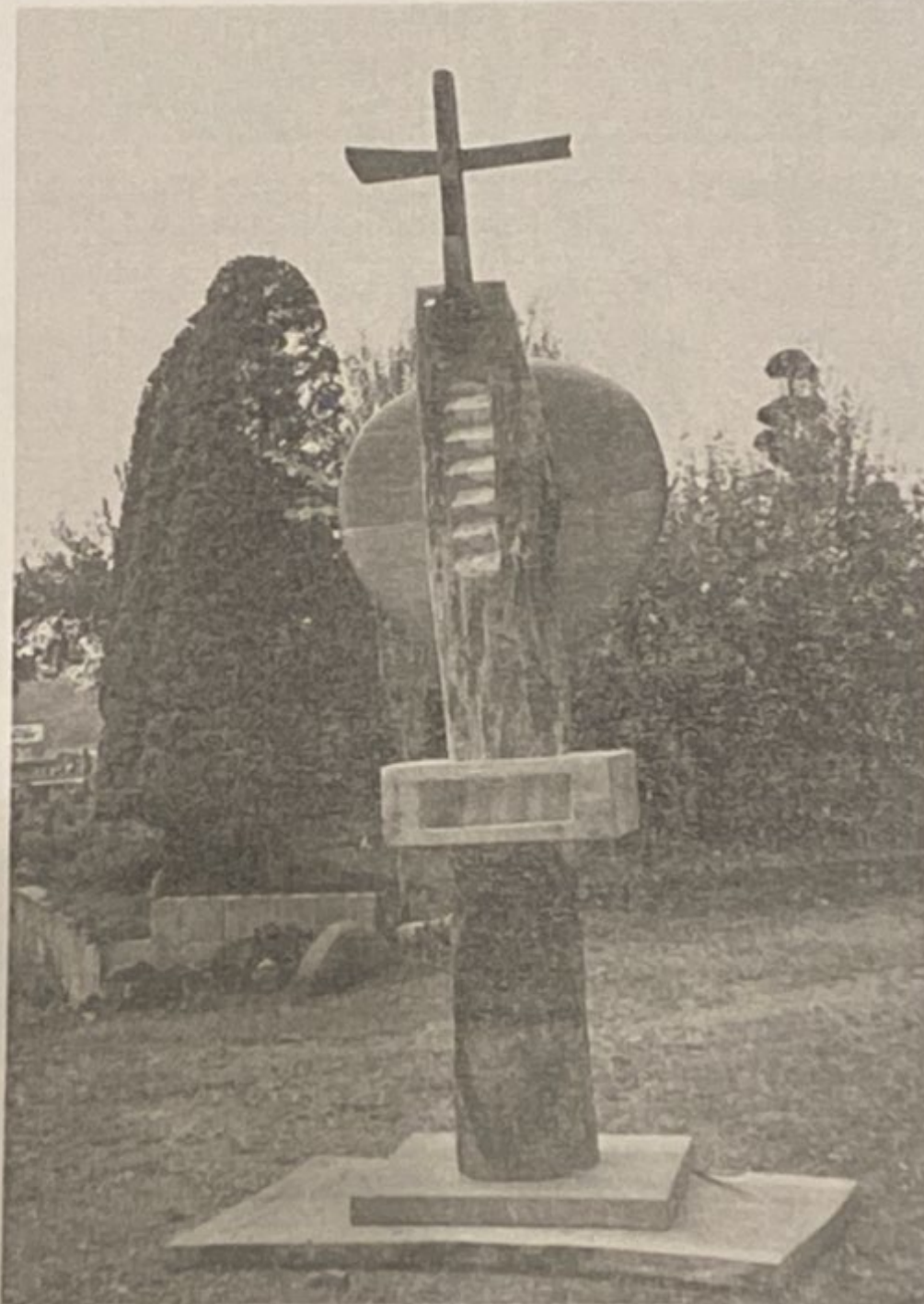


二科展作品

《津院礼利風》
ツインレリーフ
第85回二科展
2000年 71歳
45回目

二科展作品

新九賀津体氣組 喜代志 松 治 H 230 × 90 × 60 cm



《新九賀津体氣組》
第86回二科展
2001年 72歳
46回目

二科展作品

出品なし

第87回二科展
2002年 73歳



二科展作品

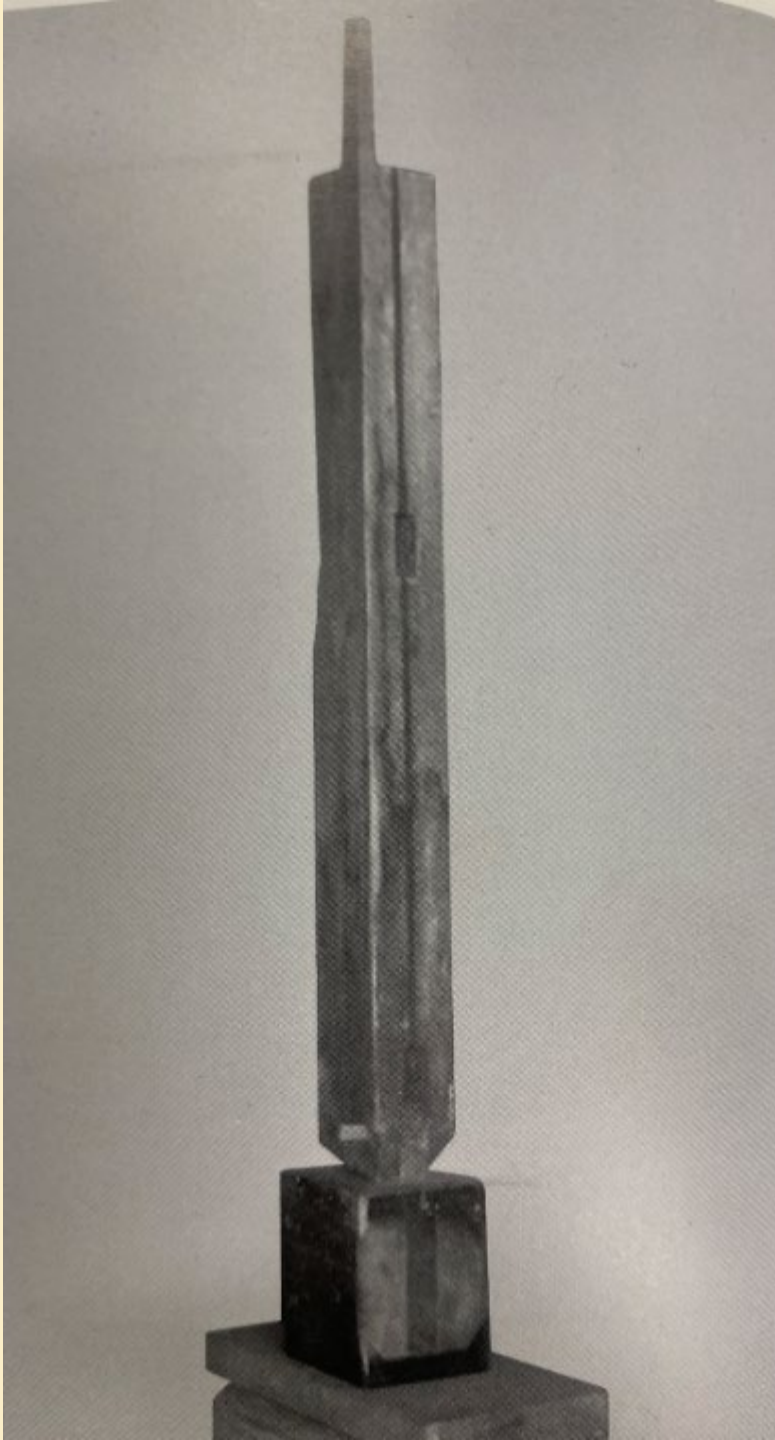
《新求学対》
第88回二科展
2003年 74歳
47回目

二科展作品

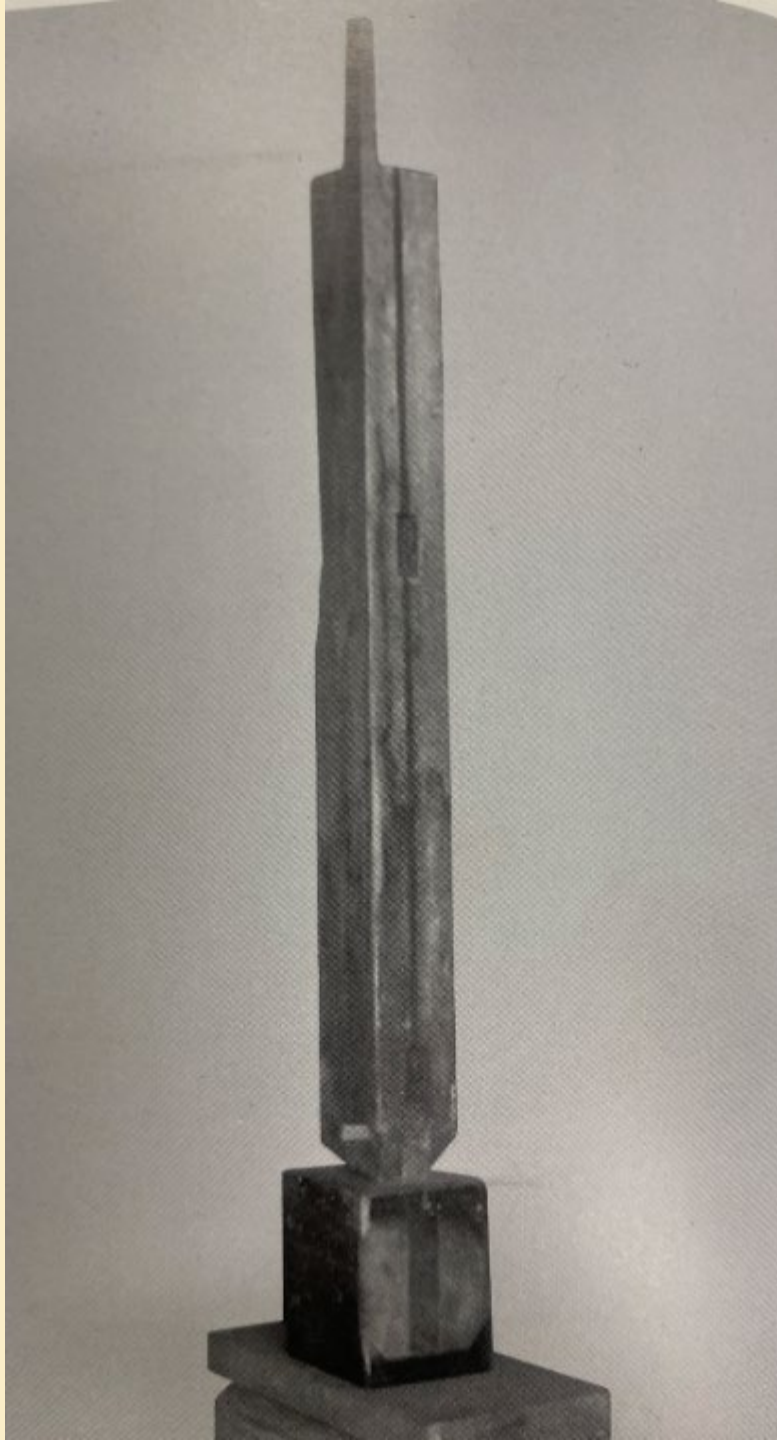
出品なし

第89回二科展
2004年 75歳

二科展最後の出品



《柱体》
第90回二科展
2005年 76歳
48回目



二科展最後の出品

柱の体？
中退？

《柱体》
第90回二科展
2005年 76歳
48回目

二科展作品

出品なし

第91～94回二科展

2006～2009年 73～76歳

2009年11月17日付 二科会退会

二科展作品

二科で挑戦を続けた
喜代志の彫刻家人生

76歳

2009年11月17日付 二科会退会

美術関係者との交流

ジャンルを超えた多様な価値観の交流

意志浦会 喜代志の石浦のアトリエで開催

高山市展運営委員、彫刻家、工芸家、一刀彫、彫刻業などの仲間が作品持参で交流 サロンの

円空研究会 1960年頃 毎月5人で集まり円空研究を行うで、
小林幹、桑谷正道、長倉三朗、三輪年朗、喜代志松治

自由な立場 新しい挑戦 飛驒の文化の発展

喜代志の言葉

抽象は**心の中の思い**を彫刻

自由な発想が許される抽象彫刻

真空地帯、自由、どちらに進めば良いのか

彫刻家をめざし**遣り抜く事**

喜代志の言葉

新鮮な方向性を目指し**おし進める**

私の考える**自由な表現**でアピール

ここまで来たからには**自分流でやる**

伝統から脱却し自分らしく生きる決意

喜代志の人柄

ユニークな私生活で日本人離れしたファッション

何かにつけて独自性の強い面白い作家だった。

古い保守的な飛騨地方に革命を起こした人

(東 勝廣)

おわりに -未来への活用-

人間味にあふれ自由に生きる喜びを体現
ユーモアを忘れず楽しんで生きる

飛驒の匠のころと技を誇りに持ち、
自由な発想で、新しく豊かな未来を
自らの手で作り出していきたい

来年初め
世界飛騨生活文化センター

喜代志松治 没後10年の回顧展を 準備中

実物の作品を
じっくり味わい
楽しみたい。

喜代志松治

没十年回顧展

Kiyoshi Matuji

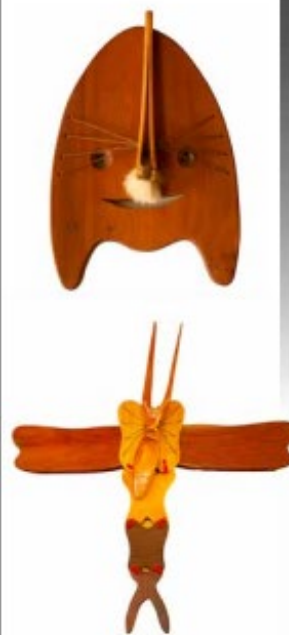


2026.1.30fri - 2.15Sun

午前10時～午後5時 休館日 3日・13日
飛騨・世界生活文化センター [高山市千鳥町900-1]

主催 飛騨・世界生活文化センター 協定管理 飛騨・マツジ
後援 飛騨高山大学 飛騨・マツジ
協賛 飛騨・世界生活文化センター・高山市・高山市教育委員会・
高山市文化協会・高山市市議会

木
氣
に
魅
せ
ら
れ
て。



つぎまたう具象の影から
自由になって、
もっともっと純粹になりたい。



参考文献

1. 喜代志松治作品集,高山市民時報社,2009年
2. 二科展図録、二科会
3. 高山市史 第二巻,高山市,1982年
4. 高山市広報,高山の文化を高めた人々80
「戦後飛騨高山に現代彫刻を広めた人 喜代志松治」,
東勝廣,2022年
5. 岐阜新聞,私の作品 郷土作家めぐり 喜代志松治
1958 年10月9日

-楽しんで生きる-

彫刻家 喜代志松治の作品と生涯

岐阜大学教育学部教授 河西 栄二